

問い合わせ先
内閣府 国民生活局
総務課調査室 高橋（義）、日裏
（電話 03-3581-0738）

平成 21 年 7 月 28 日
内閣府 国民生活局

平成 20 年度国民生活モニター調査結果(概要) ～ 食品表示等に関する意識調査 ～

1. 調査目的

原産地偽装や賞味期限、消費期限の改ざんなど、フードチェーン（食品の一次生産から販売に至るまでの食品供給の行程）全体に対する多大な不信感を招くような事件が依然として続いている。一方で消費者に対し必要な情報が提供されることは消費者の基本的権利の一つであり、表示はその重要な役割を果たしている。このような状況を踏まえ、今後、消費者にとって分かりやすい食品表示制度を検討する際の前提として、消費者がどのような点を重視して食品を選択しているのか、食品表示現行制度をどれくらい理解しているかといった食品表示等に関する消費者意識の現状とともに今後、どのような表示制度を求めているかを把握することを目的として本調査を実施した。

2. 調査期間

平成 21 年 3 月 19 日（木）～平成 21 年 3 月 25 日（水）

3. 調査対象者

○全国の国民生活モニター : 2,000 人
〔 郵送モニター（郵送調査） : 1,012 人
電子モニター（ウェブ調査） : 988 人 〕

○有効回答者数 : 1,807 人 （回収率 : 90.4%）

4. 回答者の属性

(1) 性別

男性	580 人	(32.1%)
女性	1,227 人	(67.9%)

(2) 年齢

20～29 歳	204 人	(11.3%)
30～39 歳	362 人	(20.0%)
40～49 歳	322 人	(17.8%)
50～59 歳	361 人	(20.0%)
60～69 歳	281 人	(15.6%)
70 歳以上	277 人	(15.3%)
無回答	0 人	(0.0%)

(3) 職業

1. 正社員（公務員を含む）	360 人	(19.9%)
2. 正社員以外の被雇用者	376 人	(20.8%)
3. 会社、団体などの役員	30 人	(1.7%)
4. 自営業	140 人	(7.7%)
5. 専業の主婦・主夫	596 人	(33.0%)
6. 学生	25 人	(1.4%)
7. 無職（専業の主婦・主夫を除く）	250 人	(13.8%)
8. その他・無回答	30 人	(1.7%)

5. 調査結果の概要

(1) 食品表示全般の評価

- 現在の食品表示について、「信頼できると思う」とした人は43.8%であり、「信頼できないと思う」とした人は28.0%であった（問1）。また、現在の食品表示がわかりやすいかどうかについて、「わかりやすいと思う」とした人は39.0%であり、「わかりにくいと思う」とした人は36.2%であった（問2）。信頼度、わかりやすさは、ともに平成14年度と同様調査結果より改善しているが、半数には達していない。
- 食品表示をもっとわかりやすく役立つものにするためにどうしたらよいか尋ねたところ、「表示に用いる言葉は統一して、わかりやすく整理して欲しい」が最も多く（77.1%）、次いで、「文字が小さくて見えにくいので、もっと大きくして欲しい」（42.1%）が50代以上を中心に多かった（問24）。自由意見においても同様に「子どもから大人、高齢者まで誰でもわかるような食品表示にして欲しい」などわかりやすい表示にして欲しいという意見が多数寄せられた（問27）。

(2) 消費者の食品選択

消費者が食品選択をする際の基準について、生鮮食品と加工食品に分けて3つずつ尋ねたところ、生鮮食品では回答者の多い順に「新鮮さ」（81.4%）、「安全性」（61.5%）、「価格」（58.2%）となった。一方、加工食品では回答者数の多い順に「安全性」（76.8%）、「価格」（54.0%）、「生産地」（50.9%）となった（問3）。

男女の違いを見てみると「価格」、「おいしさ」は男性の方が高く、「生産地」は女性の方が高い。年代別では、若年層は「価格」が最も高く、それ以外の層では「安全性」が「価格」よりも高かった。

(3) 現行制度の理解度

- 賞味期限と消費期限の違いを「知っていた」人は95.1%（問14）、それぞれの期限表示が未開封の場合の期限であることを知っている人も97.7%とほとんどの人が知っていた（問15）。なお、購入した商品が未開封の状態で賞味期限又は消費期限を過ぎてしまった場合にその商品をどうするか尋ねると、賞味期限、消費期限のいずれの場合でも「食品の状態を見て判断する」が7割弱で最も多いが、賞味期限の場合は、「気にせずに食べる」が次に多く26.2%、消費期限の場合は、「食べずに捨てる」が次に多く28.8%あった（問16）。
- 我が国の原料の原産地表示の方法について、海外で生まれた家畜でも、他の国々より長い期間、国内で飼養され、と畜された場合は国産品と表示されることを「知っている」人は70.5%であった（問11）。
一方、加工食品の原料原産地表示について、生鮮食品に近い20の加工食品群で、対象となる加工食品の主な原材料については原産地表示が義務づけられているが、それ以外は義務づけられていないので、表示がない場合でも国産とは限らない。このことを知っているか尋ねたところ、49.6%とほぼ半数の人が「全く知らなかった」と回答した（問13）。
- 我が国の原材料表示方法では水分や食品の名前に使った原材料等は重量比で記す必要がないことを「知っている」（「以前から知っている」と「知らなかったが、最近知った」の合

計) 人の割合は 24.0%であり、4分の3の人が「全く知らなかった」(76.0%)と回答した(問 8)。

- 我が国の遺伝子組換え食品の表示規定を多くの人が「全く知らない」(67.1%)と回答した(問 20)。また、我が国の栄養成分表示の方法について、「全く知らない」と回答した人が 50.4%であった(問 22)。

(4) 今後の表示制度のあり方

- 現在の我が国の原材料表示にないもののうち、消費者への情報提供として必要不可欠と考えるものを尋ねると「水も原料の重量表示も必要」とした人が最も多く 43.1%であった。なお、「現状のままで十分」とした人は 15.7%にとどまった(問 9)。また、現在、我が国では用途名だけの表示が認められている食品添加物の表示方法について、「用途名だけでなく、物質名も記載すべき」と考える人の割合が 70.1%で最も高く、「現状の用途名だけでよい」とした人は 12.8%であった(問 10)。
- 畜産物の産地表示として、原産国が表示としてどのように示される必要があるか尋ねたところ、「家畜が育ったところ」、「家畜が生まれた国」、「と畜を行った国」、「商品として包装された国」の全ての情報が必要であるとした人が 48.5%と最も高かった(問 12)。
- 期限表示を口語調にすることについて「今のままでよい」が最も多かった(57.9%)が、期限表示の違いを全く知らなかった人では「口語調がよい」が半数を超えるなど「口語調がよい」も 31.2%あった(問 17)。
- 牛乳やハム等の食品では賞味期限と消費期限のどちらの期限表示が消費者の認識とズレがないか尋ねると、消費期限とした人が最も多く 75.9%であり(問 18)、また、罰則のあり方については、消費期限を過ぎた商品を販売した業者は罰せられるべきとした人が最も多かった(52.9%)(問 19)。
- 栄養成分表示の義務化について、「よいことだと思う」とした人が 86.2%と多数を占めた(問 23)。

6. 質問と回答

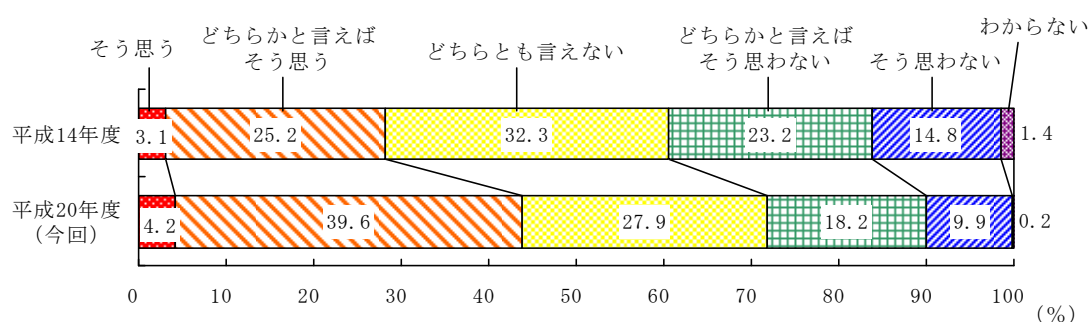
問1 あなたは、現在の食品表示は信頼できると思いますか。(○は1つだけ)
 (注) ここで言う「食品表示」とは名称、原産地、原材料、賞味期限、栄養表示など食品に表示される情報一般についてです。

現在の食品表示の信頼度について、「信頼できると思う」(「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計)とした人は、全体で見ると43.8%であり、「信頼できないと思う」(「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計)とした人は28.0%であった。

平成14年度国民生活モニター調査において行った同一質問による調査結果と比べると、「信頼できると思う」とした人は、平成14年度の28.3%から平成20年度の43.8%と15.5%ポイント上昇した。(第1-1図)

第1-1図 食品表示への信頼度(全体)

問1 あなたは、現在の食品表示は信頼できると思いますか。(○は1つ)

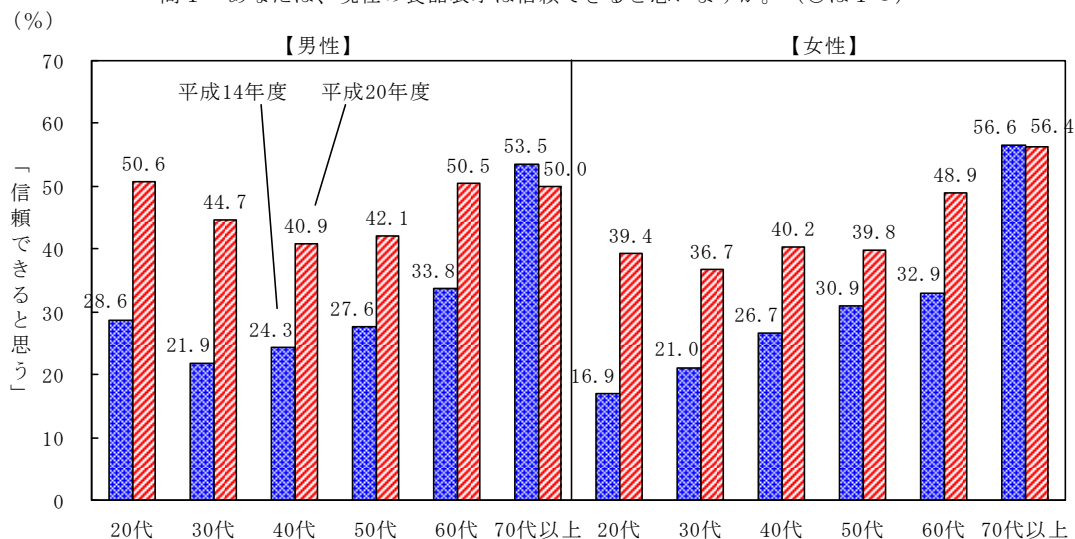


(備考) 平成14年度の回答者数は2,250人、平成20年度の回答者数は1,807人である。

男女別年代別に見ると、男性は40代、50代で「信頼できると思う」とした人が4割程度と低く、20代と70代以上では5割まで増加した。女性は20代から50代で「信頼できると思う」とした人が4割程度と低いが、60代、70代以上では年代が高くなるほど増加する傾向にあった。平成14年度と比較すると、「信頼できると思う」人の割合は、70代男女を除き、平成14年度と比べて平成20年度は増加した。(第1-2図)

第1-2図 食品表示への信頼度(男女年代別)

問1 あなたは、現在の食品表示は信頼できると思いますか。(○は1つ)



(備考) 1. 「信頼できると思う」とは「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計である。
 2. 平成14年度の回答者数は2,250人、平成20年度の回答者数は1,807人である。

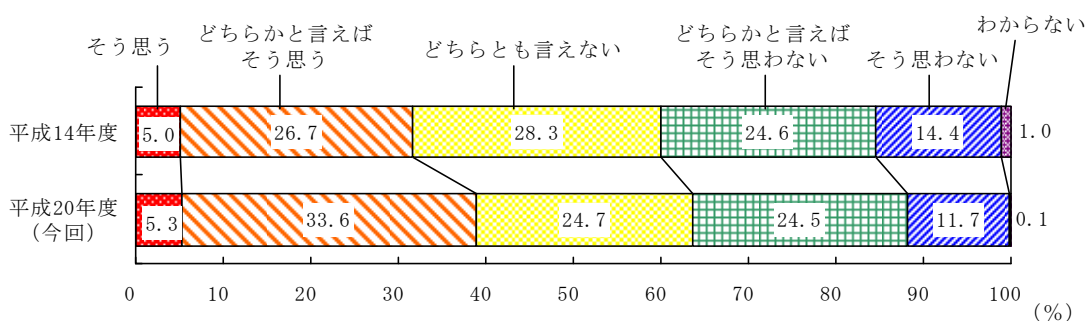
問2 あなたは、現在の食品表示はわかりやすいと思いますか。(〇は1つだけ)

現在の食品表示のわかりやすさについて、「わかりやすいと思う」(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)とした人は、全体で見ると39.0%であり、「わかりにくいと思う」(「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計)とした人は36.2%であった。

平成14年度国民生活モニター調査において行った同一質問による調査結果と比べると、「わかりやすいと思う」とした人は、平成14年度の31.7%から平成20年度の39.0%と7.3%ポイント上昇した。(第2-1図)

第2-1図 食品表示のわかりやすさ(全体)

問2 あなたは、現在の食品表示はわかりやすいと思いますか。(〇は1つ)

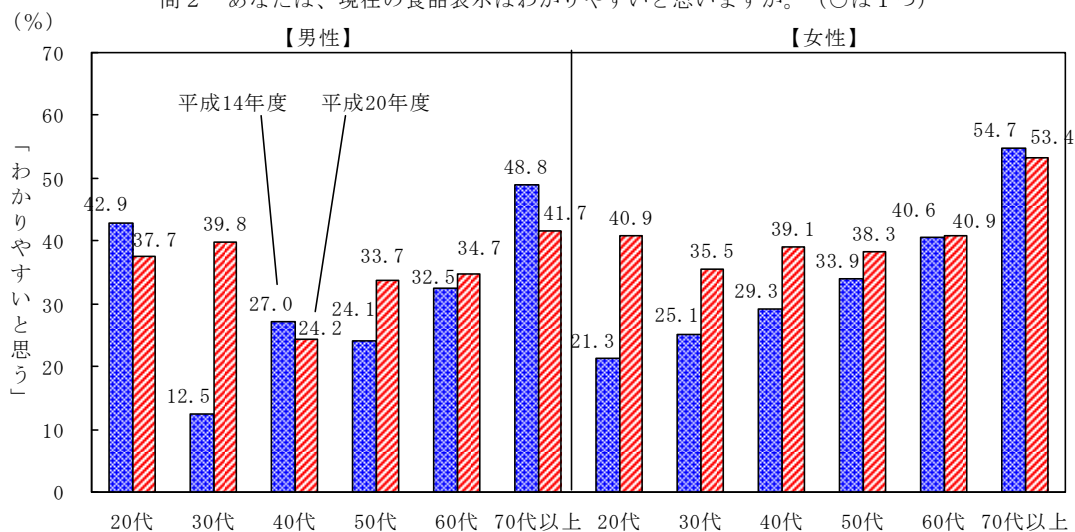


(備考) 平成14年度の回答者数は2,250人、平成20年度の回答者数は1,807人である。

男女別年代別に見ると、70代以上の男女で「わかりやすいと思う」とした人が他の年代よりも高い傾向が見られた。平成14年度と比較すると、「わかりやすいと思う」とした人の割合は、60代以下では男女とも平成20年度が平成14年度を上回っているが、70代以上の男女では平成14年度の方が多く、平成20年度にかけて「わかりやすいと思う」人が減少している。(第2-2図)

第2-2図 食品表示のわかりやすさ(男女年代別)

問2 あなたは、現在の食品表示はわかりやすいと思いますか。(〇は1つ)



(備考) 1. 「わかりやすいと思う」とは「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計である。
2. 平成14年度の回答者数は2,250人、平成20年度の回答者数は1,807人である。

問3 あなたが食品を選択する際に、どういった点を基準に選んでいますか。
 (「生鮮食品」、「加工食品」ごとにそれぞれ〇は3つまで)

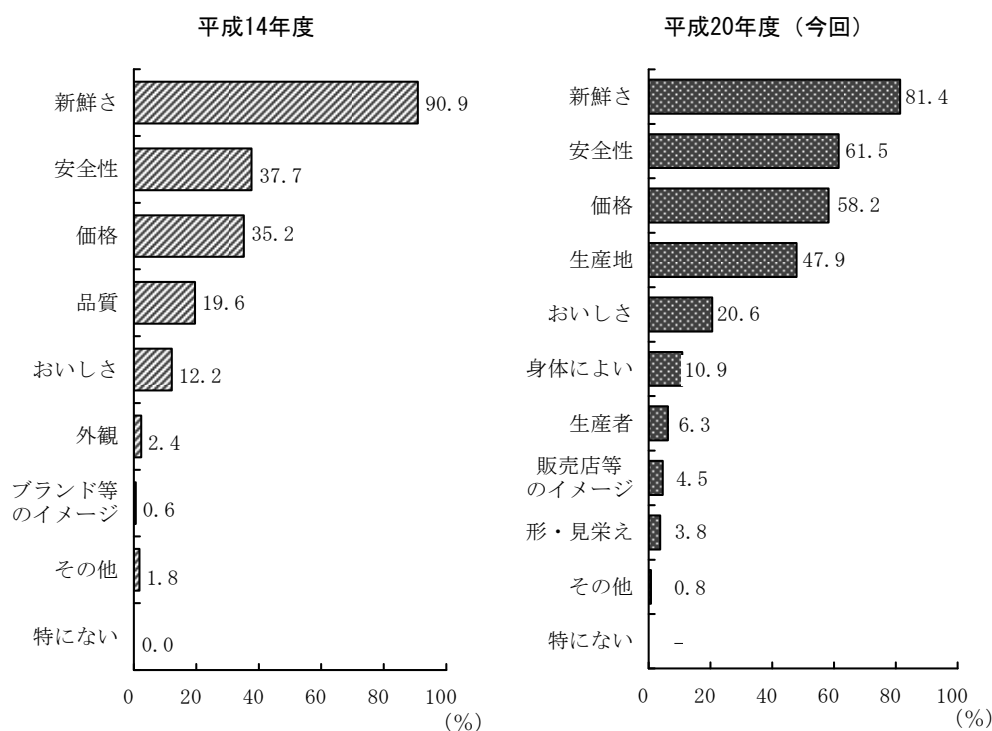
(1) 生鮮食品

生鮮食品を選択する際にどのような点を基準に選んでいるか尋ねたところ、全体で見ると、回答者が多い順に、「新鮮さ」(81.4%)、「安全性」(61.9%)、「価格」(57.0%)であった。

平成14年度国民生活モニター調査において行った同一質問による調査結果と比べると、生鮮食品選択の基準として上位3位にあげられたものは、平成14年度と平成20年度で変化がなかった。、両年度の調査で選択肢の一部と選択回答数が異なるので注意が必要であるが、14年度の選択肢になかった「生産地」が20年度では4位に挙がっている。(第3-1図)

第3-1図 食品を選択する際の基準：生鮮食品（全体）

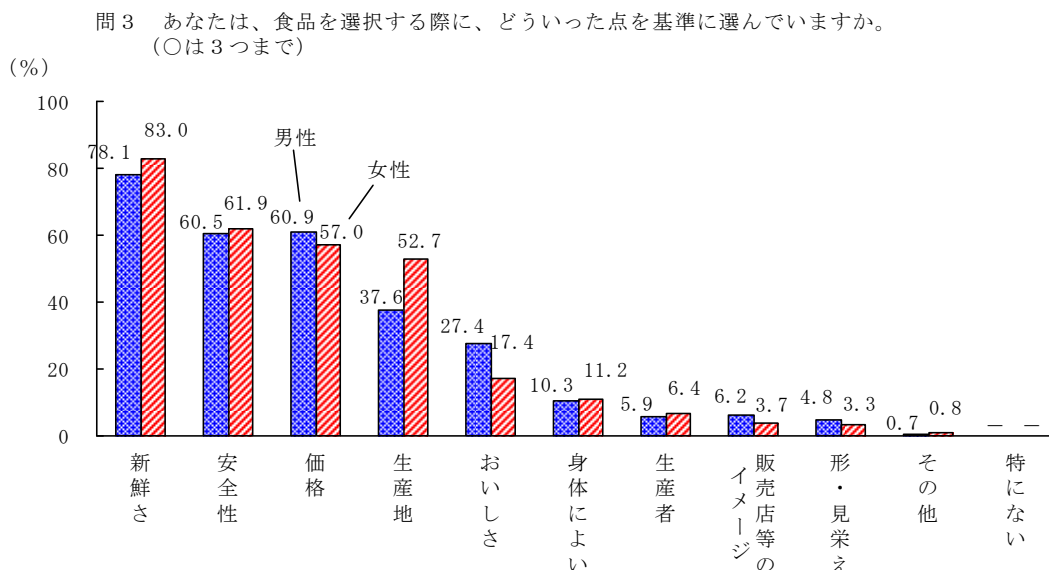
問3 あなたは、食品を選択する際に、どういった点を基準に選んでいますか。(〇は3つまで)



(備考) 1. 平成14年度の回答者数は2,246人、平成20年度の回答者数は1,807人である。
 2. 平成14年度は選択肢の中から2つまで選択、平成20年度は選択肢の中から3つを選択とした。各年度で選択肢が一部異なる。

生鮮食品選択の基準を男女別に見てみると、回答者が多い順に、男性は「新鮮さ」（78.1%）、「価格」（60.9%）、「安全性」（60.5%）で、女性は「新鮮さ」（83.0%）、「安全性」（61.9%）、「価格」（57.0%）であった。男女の違いに着目すると、特に「生産地」は男性37.6%に比べて女性52.7%であり、15.1%ポイントも女性の方が高い。一方、「おいしさ」や「価格」などは男性の方が高く、「生産地」、「新鮮さ」などは女性の方が高い傾向にある。（3-2図）

第3-2図 食品を選択する際の基準：生鮮食品（男女別）



（備考）回答者数は1,807人である。

さらに年代別に見てみると、「安全性」、「価格」、「おいしさ」、「新鮮さ」は年代による差が大きく、20代から40代では「価格」が2位（特に20代では1位の「新鮮さ」と僅差）で「安全性」が3位となっている一方、50代以上では「安全性」が2位で「価格」は3位となっている。また、すべての年代で5位にある「おいしさ」を見ると、30代以上は4位の「生産地」に比べ回答者が半分以下となるが、一方で20代は4位の「生産地」と回答者数が近く、他の年代よりも「おいしさ」を重視している傾向がある。（第3-3表）

第3-3表 食品を選択する際の基準：生鮮食品（年代別）

問3 あなたは食品を選択する際に、どういった点を基準に選んでいますか。（○は3つまで）

単位：%

順位	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	新鮮さ 72.1	新鮮さ 79.0	新鮮さ 82.3	新鮮さ 83.9	新鮮さ 87.9	新鮮さ 80.5
2	価格 69.1	価格 61.6	価格 62.1	安全性 64.3	安全性 69.0	安全性 70.0
3	安全性 52.5	安全性 51.9	安全性 60.9	価格 55.7	価格 51.6	価格 51.3
4	生産地 36.8	生産地 50.8	生産地 44.7	生産地 53.5	生産地 48.8	生産地 47.7
5	おいしさ 33.3	おいしさ 23.2	おいしさ 18.9	おいしさ 18.8	おいしさ 15.7	おいしさ 17.0

（備考）1. 年代別に回答者の割合が高い上位5項目を表す。

2. 回答者数は1,807人である。

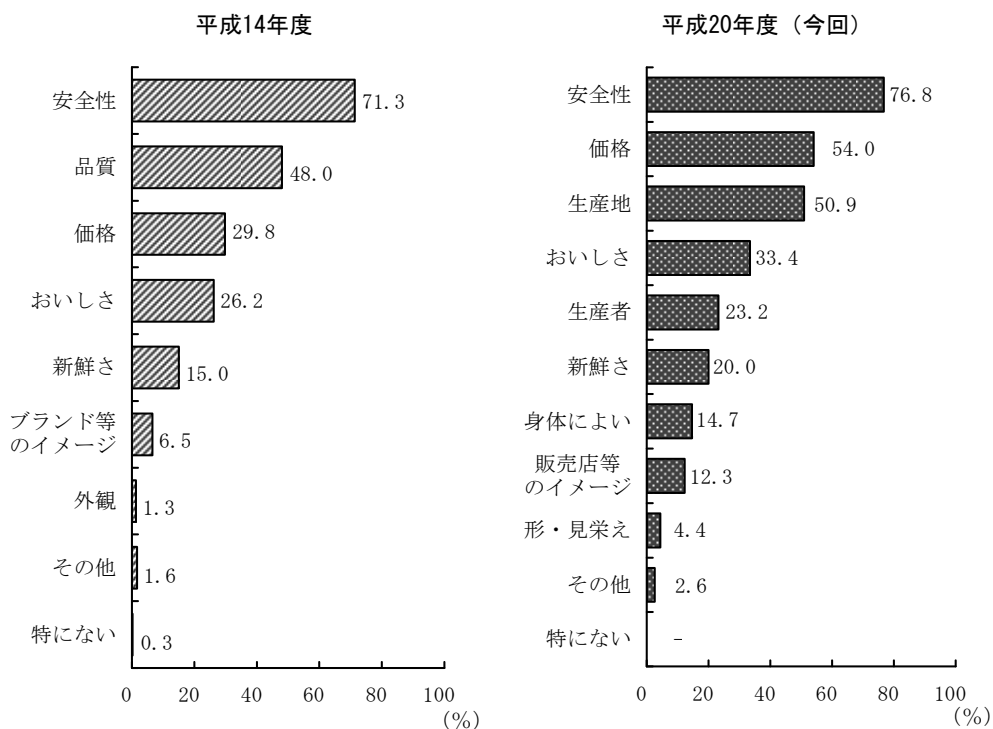
(2) 加工食品

加工食品を選択する際にどのような点を基準に選んでいるか尋ねたところ、全体で見ると、回答者が多い順に、「安全性」(76.8%)、「価格」(54.0%)、「生産地」(50.9%)であった。

平成14年度国民生活モニター調査において行った類似の質問による調査結果と比べると、加工食品選択の基準として最も回答者の多かったものは、平成14年度も平成20年度も同じ「安全性」であった。一方、「品質」という選択肢がなくなった影響があると思われるが、「価格」を挙げる人が増加した(29.8%→54.0%)。なお、生鮮食品の部分でも触れたが、両年度の調査で選択肢の一部と選択回答数が異なるので注意が必要である。(第3-4図)

第3-4図 食品を選択する際の基準：加工食品（全体）

問3 あなたは、食品を選択する際に、どういった点を基準に選んでいますか。(〇は3つまで)

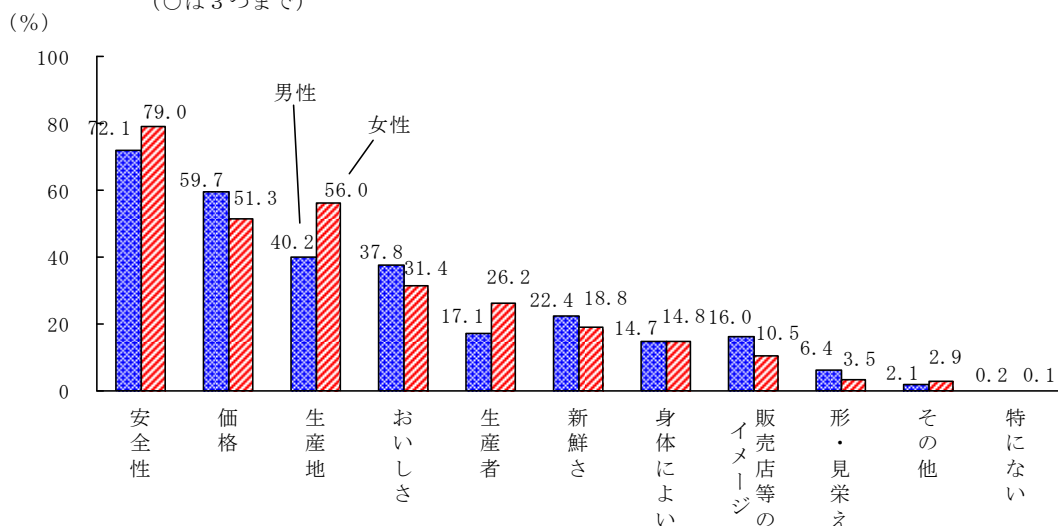


- (備考) 1. 平成14年度の回答者数は2,246人、平成20年度の回答者数は1,807人である。
 2. 平成14年度は選択肢の中から2つまで選択、平成20年度は選択肢の中から3つを選択とした。各年度で選択肢が一部異なる。

加工食品選択の基準を男女別に見てみると、回答者が多い順に、男性は「安全性」(72.1%)、「価格」(59.7%)、「生産地」(40.2%)で、女性は「安全性」(79.0%)、「生産地」(56.0%)、「価格」(51.3%)であった。男女の違いに着目すると、特に、「生産地」は男性40.2%に比べ、女性56.0%であり、15.8%ポイントも女性の方が高く、また「生産者」は男性17.1%に比べて女性は26.2%であり、9.1%ポイントも女性の方が高かった。(第3-5図)

第3-5図 食品を選択する際の基準：加工食品（男女別）

問3 あなたは、食品を選択する際に、どういった点を基準に選んでいますか。(〇は3つまで)



(備考) 回答者数は1,807人である。

さらに年代別に見てみると、30代以上では「価格」と回答した人が最も多かったが、20代では「価格」と回答した人が最も多く、「安全性」は2位であった。1位の「安全性」に次いで、30代、40代、70代は2位が「価格」、3位が「生産地」であった(70代は2位の「価格」と3位の「生産地」は僅差)。50代と60代は2位が「生産地」で3位が「価格」となっている。(第3-6表)

第3-6表 食品を選択する際の基準：加工食品（年代別）

問3 あなたは食品を選択する際に、どういった点を基準に選んでいますか。(〇は3つまで)

単位：%

順位	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	価格 69.1	安全性 70.2	安全性 78.9	安全性 80.3	安全性 81.5	安全性 83.0
2	安全性 63.7	価格 60.5	価格 57.5	生産地 55.7	生産地 60.1	価格 48.7
3	おいしさ 46.6	生産地 49.4	生産地 50.0	価格 49.9	価格 41.3	生産地 48.0
4	生産地 37.7	おいしさ 38.1	おいしさ 34.8	おいしさ 30.5	新鮮さ 27.8	新鮮さ 35.4
5	生産者 18.1	生産者 20.7	生産者 21.1	生産者 29.6	おいしさ 27.4	おいしさ 26.0

(備考) 1. 年代別に回答者の割合が高い上位5項目を表す。

2. 回答者数は1,807人である。

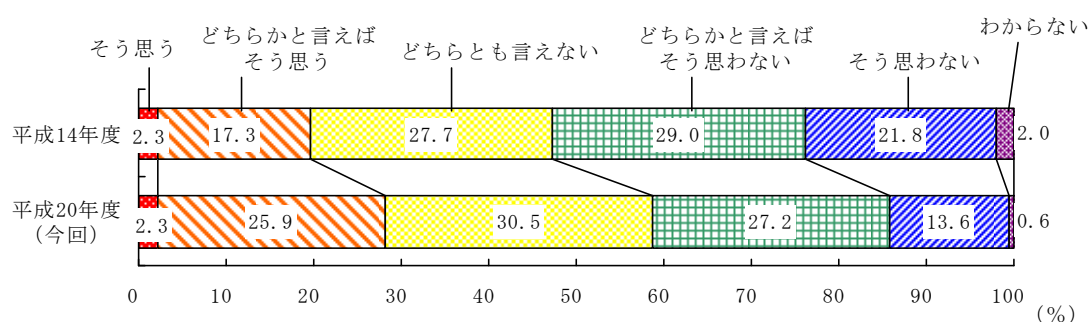
問4 あなたは、現在の食品表示で十分な情報が得られていると思いますか。(〇は1つだけ)

現在の食品表示で十分な情報が得られていると思うか尋ねたところ、「得られていないと思う」(「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計)とした人の40.7%であり、「得られていると思う」(「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計)とした人は、28.2%であった。

平成14年度国民生活モニター調査において行った同一質問による調査結果と比べると、「得られていると思う」とした人は、平成14年度の19.6%から平成20年度の28.2%へと8.6%ポイント上昇した。(第4-1図)

第4-1図 現在の食品表示で十分な情報が得られているか(全体)

問4 あなたは、現在の食品表示で十分な情報が得られていると思いますか。(〇は1つ)

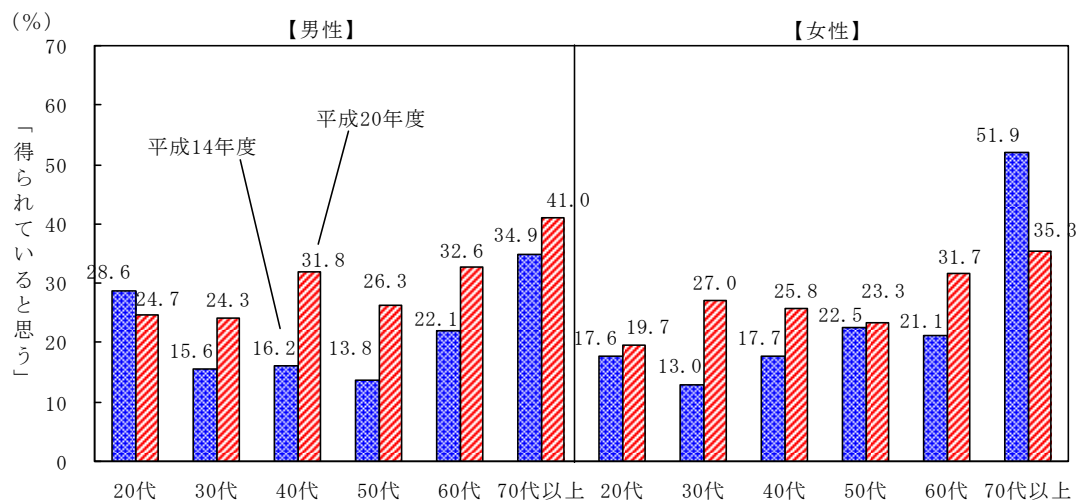


(備考) 平成14年度の回答者数は2,249人、平成20年度の回答者数は1,807人である。

男女別年代別に見ると、30代を除き、女性よりも男性の方が「得られていると思う」と回答している割合が高い。また、60代以上では他の年代に比べ「得られていると思う」として人の割合がやや高い。平成14年度と比較すると、20代の男性と70代以上の女性では「得られていると思う」と回答した人の割合が減少しているものの、それ以外の人は増加した。(第4-2図)

第4-2図 現在の食品表示で十分な情報が得られているか(男女年代別)

問4 あなたは、現在の食品表示で十分な情報が得られていると思いますか。(〇は1つ)

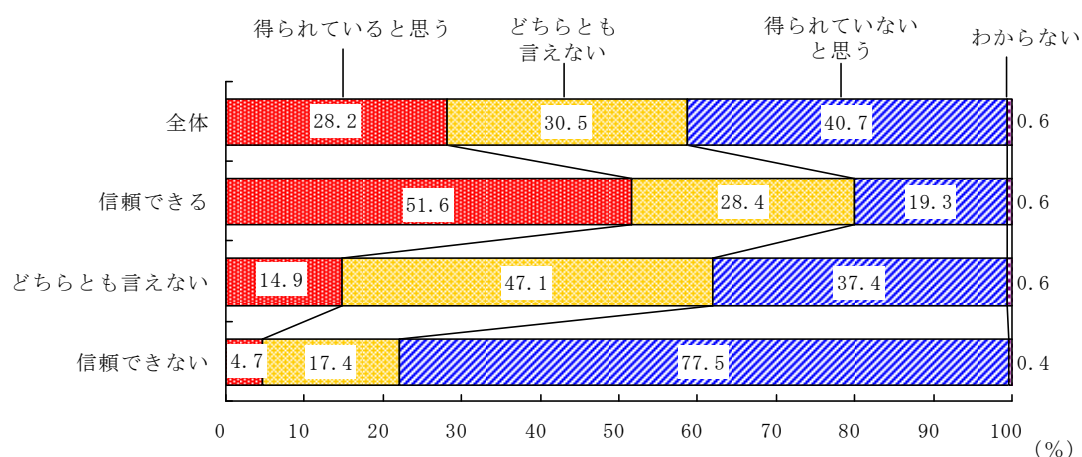


(備考) 1. 「得られていると思う」とは「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計である。
2. 平成14年度の回答者数は2,250人、平成20年度の回答者数は1,807人である。

食品表示への信頼度と現在の食品表示で十分な情報が得られていると思うかどうかの関係を見ても、食品表示を「信頼できる」（問1の質問の回答で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）とした人では、現在の食品表示で十分な情報が「得られていると思う」（問4の質問の回答で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）とした人の割合が51.6%であり、食品表示を「信頼できない」（問1の質問の回答で「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計）とした人の4.7%に比べ46.9%ポイントも高い。反対に、食品表示を「信頼できない」とした人では、現在の食品表示で十分な情報が「得られていないと思う」（問4の質問の回答で「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計）とした人の割合が77.5%であり、食品表示を「信頼できる」とした人の19.3%に比べ58.2%ポイントも高い。

このように、食品表示の情報を得られていると思う人は信頼をし、情報を得られていないと感じている人は信頼をしていない。（4-3図）

第4-3図 食品表示への信頼度と現在の食品表示で十分な情報が得られていると思うかどうかの関係



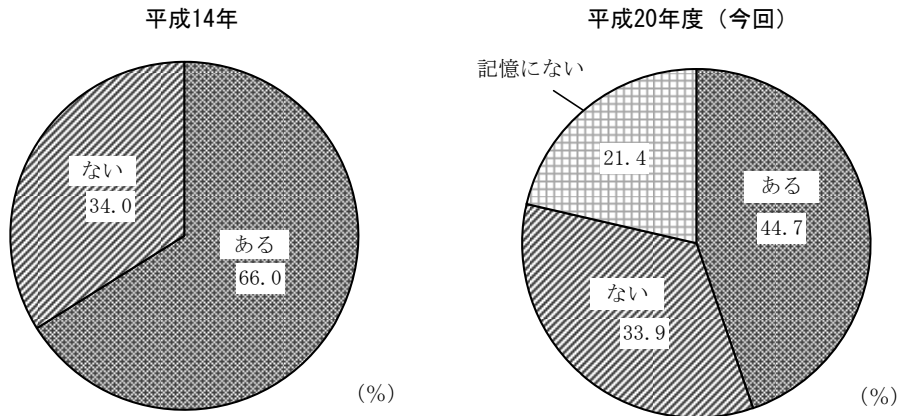
- (備考) 1. 「問1 あなたは、現在の表示は信頼できると思いますか」という質問に対して回答した人が「問4 あなたは、現在の食品表示で十分な情報が得られていると思いますか」という質問に、それぞれどのように回答したかを見るために、問1と問4間でクロス集計したものである。
2. 「信頼できる」は問1の「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計、「信頼できない」は問1の「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計、「得られていると思う」は問4の「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計、「得られていないと思う」は問4の「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計である。
3. 回答者数は1,807人である。

問5 (1) あなたは、この1～2年くらいの間に購入した食品の表示に関連して何か不満を持ったことがありますか。(○は1つだけ)
 (2) 「ある」と答えた方だけにお聞きします。それは具体的にどのようなものでしたか。

この1～2年くらいの間に購入した食品の表示に関連して、何か不満を持ったことがあるかどうか尋ねたところ、「ある」と回答した人は44.7%であった。平成14年度国民生活モニター調査において行った類似の質問による調査結果と比べると、回答選択肢が2択から3択に変更していることに注意が必要であるが、「ある」と回答した人の割合は、平成14年度の66.0%から21.3%ポイント低下した。(第5-1図)

第5-1図 食品表示に対する不満

問5 (1) あなたは、この1～2年くらいの間に購入した食品の表示に関連して何か不満を持ったことがありますか。(○は1つ)



(備考) 1. 平成14年度の回答者数は2,243人、平成20年度の回答者数は1,807人である。
 2. 平成14年度の回答選択肢は「ある」と「ない」の2択であり、平成20年度の回答選択肢は「ある」、「ない」、「記憶にない」の3択である。

「ある」と答えた人に、具体的な内容を聞いたところ、

- ・加工食品の原材料の原産地がわからないものが多く、不安である(食肉加工品、刺身盛り合わせ、総菜など)。
- ・国産の表示を見て商品(あさり、しじみ、うなぎ、など)を購入したが、後になって産地偽装であることがわかった。
- ・販売者のみで生産者や加工場所の記載がない。原材料の産地から加工・製品化、販売までの全過程について、どこの国が関わったのかわからない。
- ・賞味期限のみの記載で、製造日がわからないので、合わせて記載して欲しい。

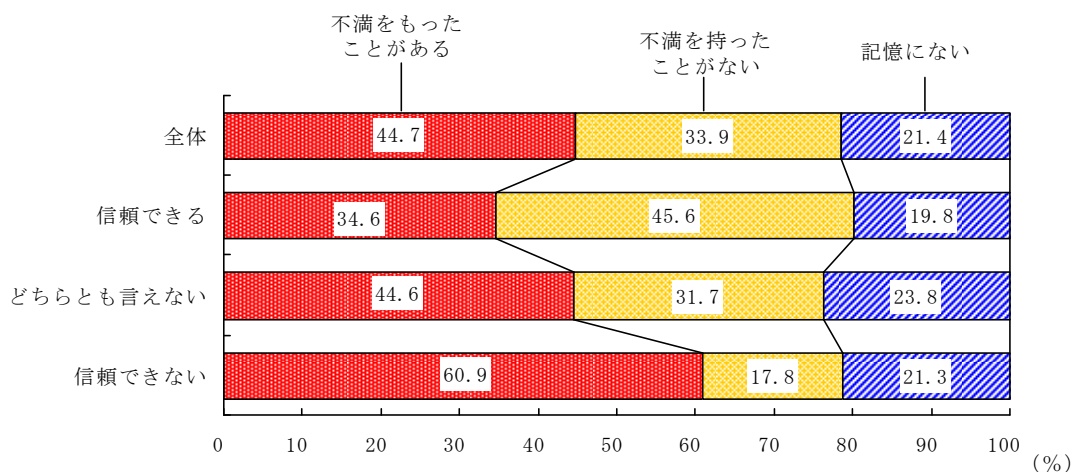
などの回答が多かった(自由記述式)。

平成14年度国民生活モニター調査において行った類似の質問による調査結果(選択式の質問)では、「セール品に値引き前の価格が表示されていたが、元の価格で売られたことがあるかどうかなど、その根拠が不明確であった」、「消費期限等は過ぎていなかったが、変質、腐敗、異物の混入など、安全、衛生上の問題があった」などの回答が多かったのに比べ、食品の原材料、原産地、生産者、製造日などが不明確であることへの不満が回答に現れている。

食品表示への信頼度と食品表示への不満の有無の関係を見てみると、食品表示を「信頼できない」とした人では、食品表示への「不満をもったことがある」とした人が60.9%であり、食品表示を「信頼できる」（問1の質問の回答で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）とした人の34.6%と比べて26.3%ポイント高い。反対に、食品表示を「信頼できる」とした人は、食品表示に「不満を持ったことがない」の割合が高く45.6%であった。（第5－2図）

これらのことは、食品表示に不満をもつような経験をした結果、信頼できないと感じるようになった可能性を示唆している。

第5－2図 食品表示への信頼度と食品表示への不満の有無



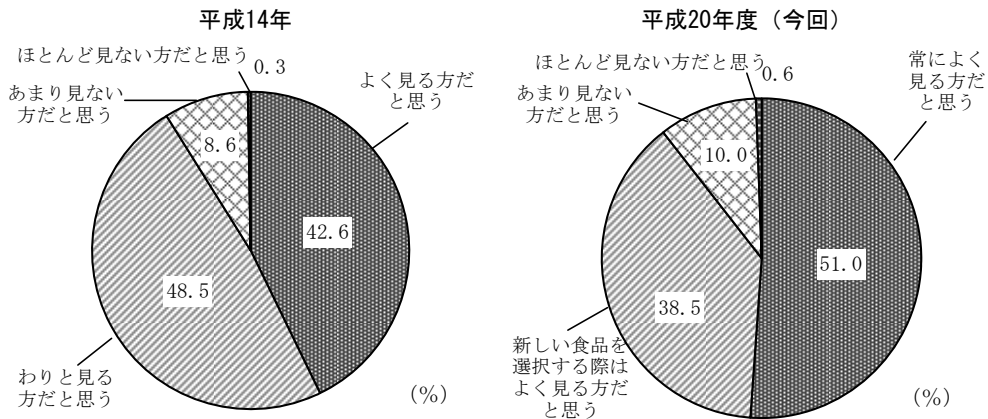
- (備考) 1. 「問1 あなたは、現在の表示は信頼できると思いますか」という質問に対して回答した人が「問5 あなたは、この1～2年くらいの間に購入した食品の表示に関連して何か不満を持ったことがありますか」という質問に、それぞれどのように回答したかを見るために、問1と問5間でクロス集計したものである。
2. 「信頼できる」は問1の「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計、「信頼できない」は問1の「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計である。
3. 回答者数は1,807人である。

問6 あなたは、食品を選択する際に、表示を見る方だと思いますか。(〇は1つだけ)

食品を選択する際に、表示を見る方かどうか尋ねたところ、「常によく見る方だと思う」という人が51.0%で、平成14年度国民生活モニター調査において行った同一質問による調査結果と比べると、回答選択肢に一部変更していることに注意が必要であるが、42.6%から8.4%ポイント上昇した。一方、「よく見る方だと思う」(「常によく見る方だと思う」と「新しい食品を選択する際はよく見る方だと思う」の合計)とした人は、全体で見ると89.5%であり、平成14年度の「見る方だと思う」(「よく見る方だと思う」と「わりと見る方だと思う」の合計)と回答した人の割合91.2%から1.7%ポイント低下した。(第6-1図)

第6-1図 食品を選択する際の表示確認の頻度(全体)

問6 あなたは、食品を購入する際に、表示を見る方だと思いますか。(〇は1つ)

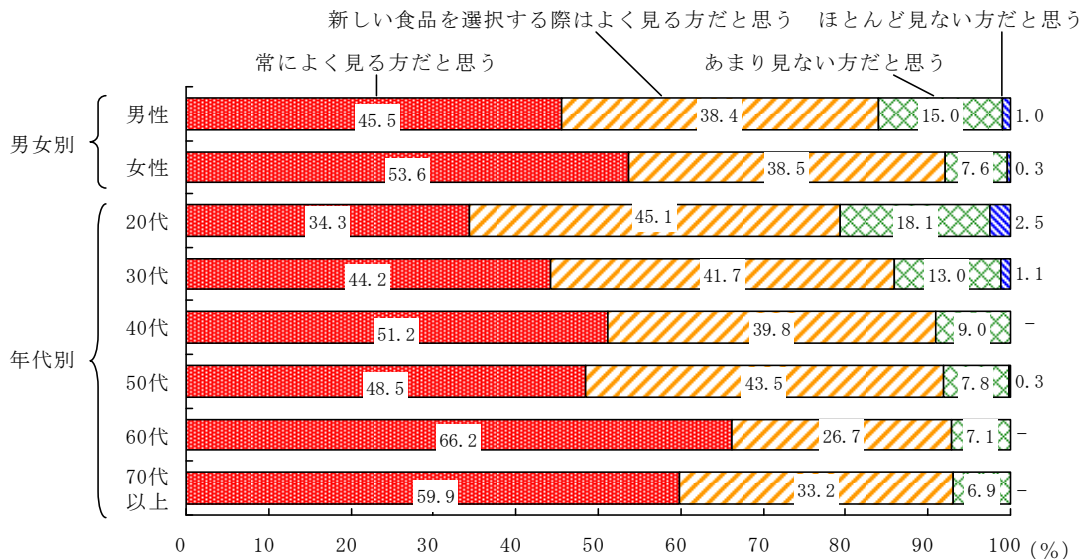


(備考) 1. 平成14年度の回答者数は2,242人、平成20年度の回答者数は1,807人である。
2. 平成14年度と平成20年度で選択肢の一部を変更した。

男女別に見ると、「よく見る方だと思う」(「常によく見る方だと思う」と「新しい食品を選択する際はよく見る方だと思う」の合計)は男性が84.0%に対し、女性は92.1%と8.1%ポイント高かった。また、年代別に見ると、40代以上では「よく見る方だと思う」とした人が9割を超えているものの、30代以下では年代が若くなるほど「見ない方だと思う」(「あまり見ない方だと思う」と「ほとんど見ない方だと思う」の合計)とした人が多くなっている。(第6-2図)

第6-2図 食品を選択する際の表示確認の頻度(男女別・年代別)

問6 あなたは、食品を購入する際に、表示を見る方だと思いますか。(〇は1つ)



(備考) 回答者数は1,807人である。

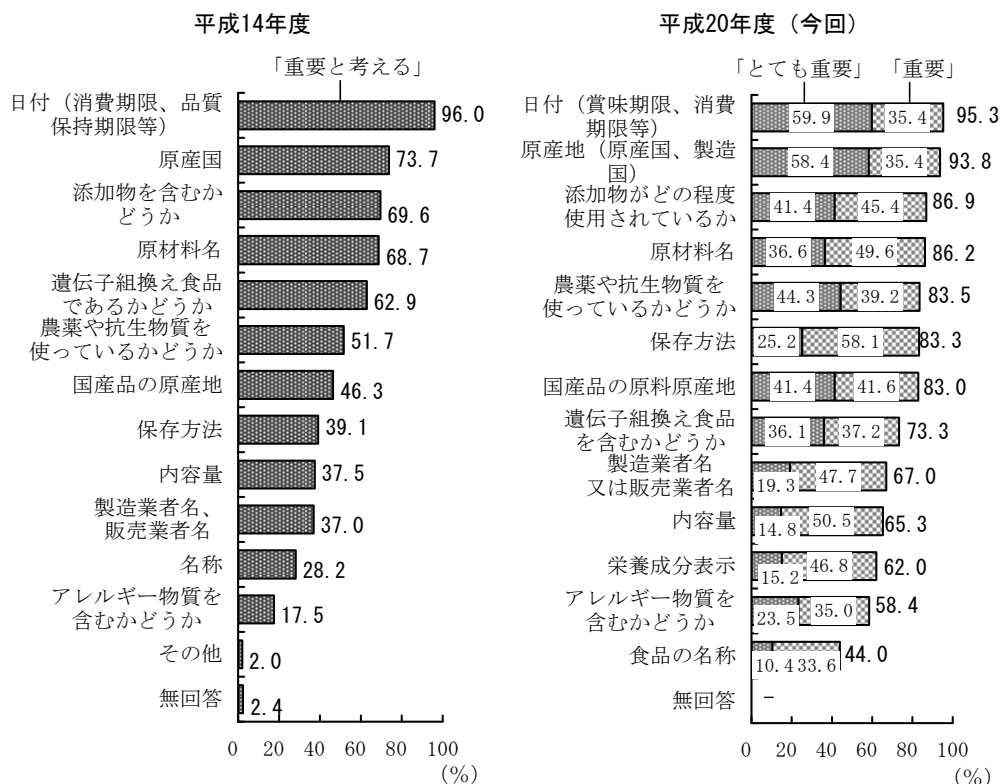
問7 あなたは、食品を選択する際に、下記の表示事項はそれぞれの程度重要だと考えますか。(それぞれ○は1つずつ)

食品を選択する際に、各表示事項の重要度を尋ねたところ、「重要である」（「とても重要」と「重要」の合計）とした人が最も多かったのは「日付（賞味期限・消費期限等）」（95.3%）、2番目に「原産地（原産地、製造国）」（93.8%）、3番目に「添加物がどの程度使用されているか」（86.9%）であった。

平成14年度国民生活モニター調査において行った類似の問による調査結果と比べると、同一選択肢の比較では、両年度とも1位の「日付」を除くすべての表示事項で重要度が増している。なお、上位4位までの表示事項の順位は両年度とも同じであった。（第7-1図）

第7-1図 食品を選択する際の各表示事項の重要度（全体）

問7 あなたは、食品を購入する際に、下記の表示事項はそれぞれの程度重要だと考えますか。（○はそれぞれ1つ）

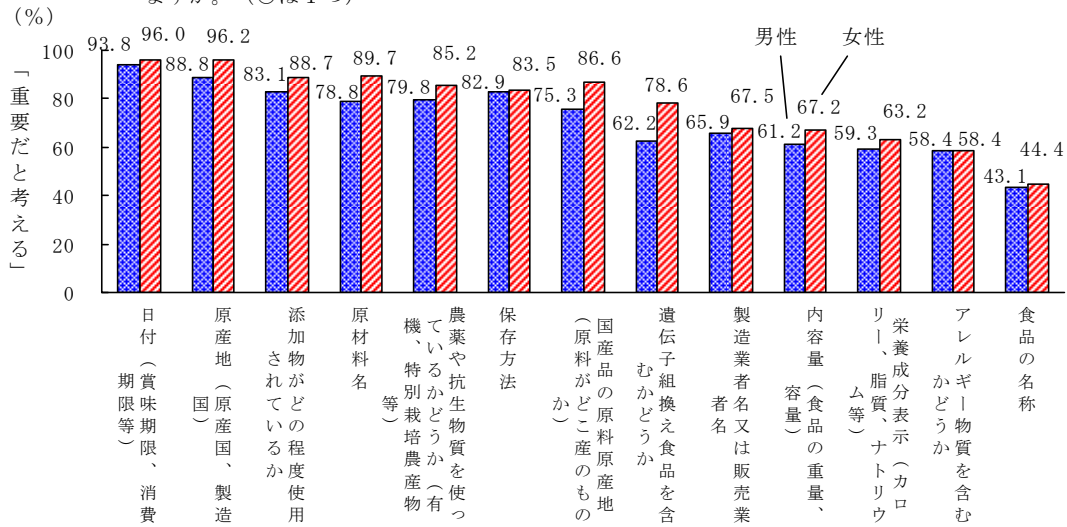


(備考) 1. 平成14年度の回答者数は2,247人、平成20年度の回答者数は1,807人である。
2. 平成14年度は選択肢の中から重要と思う事項をすべて選ぶ複数選択式、平成20年度は各事項の重要度を「とても重要」から「全く重要ではない」まで5段階選択のうちのひとつを選ぶ方式で得た回答結果である。

男女別に見ると、男女とも「重要だと考える」（「とても重要」と「重要」の合計）とした人が多かった表示事項は、男性では、全体と同様に1番が「日付（賞味期限・消費期限等）」（93.8%）、2番が「原産地（原産地、製造国）」（88.8%）、3番が「添加物がどの程度使用されているか」（83.1%）である一方、女性では、1番が「原産地（原産地、製造国）」（96.2%）、2番が「日付（賞味期限・消費期限等）」（96.0%）、3番が「原材料名」（89.7%）となった。また、いずれの表示事項の重要度も女性が男性と同じであるか、それを上回っており、女性の方がそれぞれの表示事項を重用していることがわかる。（第7-2図）

第7-2図 食品を選択する際の各表示事項の重要度（男女別）

問7 あなたは、食品を選択する際に、下記の表示事項はそれぞれの程度重要だと考えますか。（○は1つ）



(備考) 1. 「重要だと考える」とは「とても重要」と「重要」の合計である。
2. 回答者数は1,807人である。

また、「重要だと考える」表示事項について年代別に見てみると、すべての年代で「日付（賞味期限・消費期限等）」または「原産地（原産地、製造国）」の表示が「重要だと考える」人の割合が最も多い、または2番目に多いという結果になった（20代、30代、50代、70代以上は「日付」が1位で「原産地」が2位。40代と60代は「原産地」が1位で「日付」が2位。いずれも1位と2位は僅差である。）。さらに、50代では「添加物がどの程度使用されているか」と「原材料名」、60代では「添加物がどの程度使用されているか」、「原材料名」、「農薬や抗生物質を使っているかどうか」および「保存方法」、70代以上は「農薬や抗生物質を使っているかどうか」と「保存方法」を「重要だと考える」人の割合は9割を超えた。（第7-3表）

第7-3表 食品を選択する際の各表示事項の重要度（年代別）

問7 あなたは、食品を選択する際に、下記の表示事項はそれぞれの程度重要だと考えますか。（○は1つ）

単位：%

順位	20代		30代		40代		50代		60代		70代以上	
1	日付	94.1	日付	97.5	原産地	94.7	日付	95.6	原産地	97.2	日付	93.9
2	原産地	92.2	原産地	91.2	日付	94.1	原産地	95.0	日付	95.7	原産地	92.4
3	添加物がどの程度使用されているか	79.4	国産品の原料原産地	84.3	原材料名	87.6	添加物がどの程度使用されているか	91.7	添加物がどの程度使用されているか	93.6	農薬や抗生物質を使っているかどうか	90.3
4	原材料名	74.0	原材料名	80.9	添加物がどの程度使用されているか	87.3	原材料名	90.9	原材料名	92.9	保存方法	90.3
5	国産品の原料原産地	73.0	添加物がどの程度使用されているか	80.4	農薬や抗生物質を使っているかどうか	84.2	保存方法	88.4	農薬や抗生物質を使っているかどうか	92.2	原材料名	87.7

(備考) 1. 年代別に「重要だと考える」（「とても重要」と「重要」の合計）と回答した人の割合が高い上位5項目を表す。
2. 回答者数は1,807人である。

(原材料表示について)

問8 下記は、チキンスープの原材料表示の例ですが、日本と海外で比較すると、我が国では、1) 水分を含んでいる場合でもそれを表示する必要がない(例えば、欧州では総重量の5%以上を占める場合、表示する必要がある)、2) 食品の名前に使った原材料等は総重量に占めるその原材料の重量比を示す必要がない、などで表示に違いがあります。B国が日本の表示方法であるということを、あなたは知っていましたか。(〇は1つだけ)

(A国)

原材料：水、植物油、トウモロコシでんぷん、小麦粉、鶏肉(2%)、食塩、クリーム、脱脂粉乳、チキンストック(卵と小麦を含む)、砂糖、ホエイたんぱく質(牛乳から)、酵母エキス、オニオンパウダー、香辛料、にんにく、着色料(β-カロチン、パプリカ抽出物)

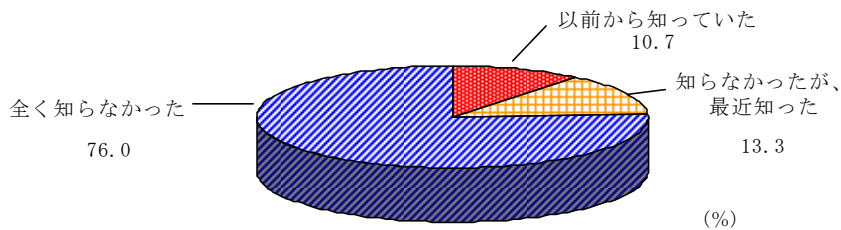
(B国)

原材料：チキンストック、チキンファット、でん粉、小麦粉、チキン、クリーム(乳製品)、食塩、マーガリン、ホエイパウダー、大豆たんぱく、酵母エキス、植物油、バター、調味料(アミノ酸等)、香料、カロチン色素

日本国内での原材料表示方法について尋ねたところ、「全く知らなかった」とした人が76.0%と全体の4分の3を占めた。(第8-1図)

第8-1図 日本の原材料表示方法の認知度(全体)

問8 B国が日本の表示方法であるということを、あなたは知っていましたか。(〇は1つ)

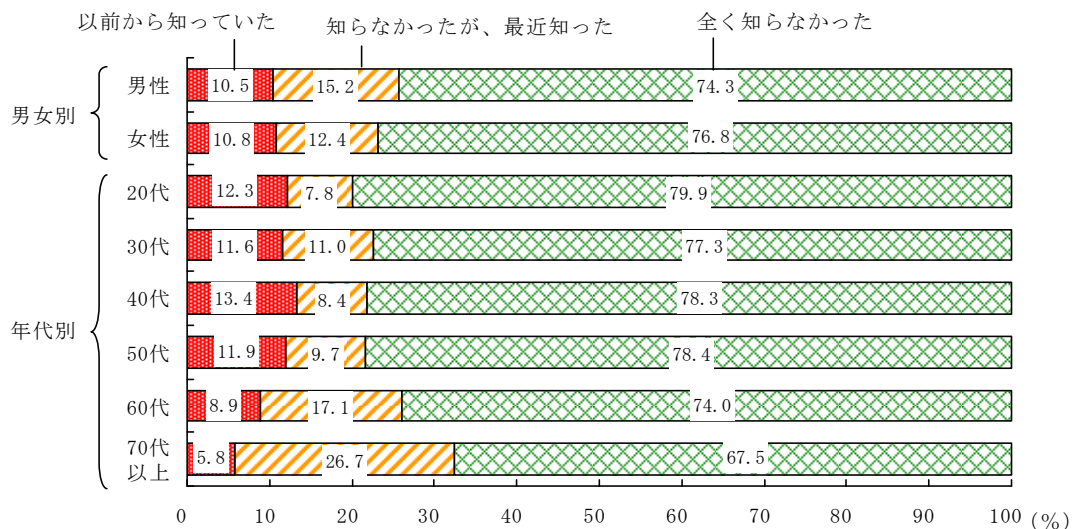


(備考) 回答者数は1,807人である。

男女別に見ると差はあまり見られないが、年代別に見ると「全く知らなかった」とした人が70歳以上で67.5%に対して、20代では79.9%などと差が見られた。(第8-2図)

第8-2図 日本の原材料表示方法の認知度(男女別・年代別)

問8 B国が日本の表示方法であるということを、あなたは知っていましたか。(〇は1つ)



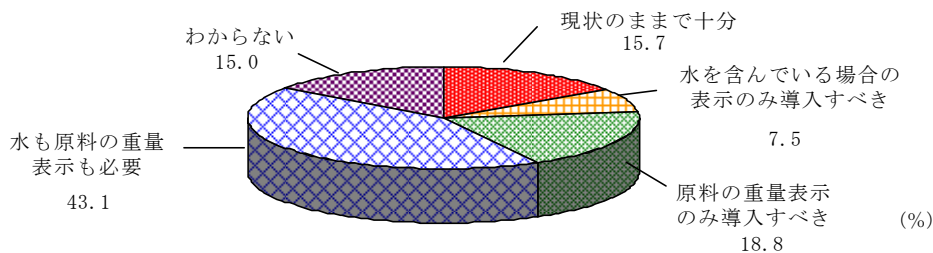
(備考) 回答者数は1,807人である。

問9 上記の日本の表示（B国）にないもので消費者への情報提供として必要不可欠と考える表示はどれですか。次の中から該当するものを選んで下さい。（○は1つだけ）

日本の原材料表示にないもので、消費者への情報提供として必要不可欠と考える表示を尋ねると、「水も原料の重量表示も必要」とした人が最も多く43.1%であった。なお、「現状のままで十分」とした人は15.7%にとどまった。（第9-1図）

第9-1図 日本の原材料表示にも必要と思われる表示（全体）

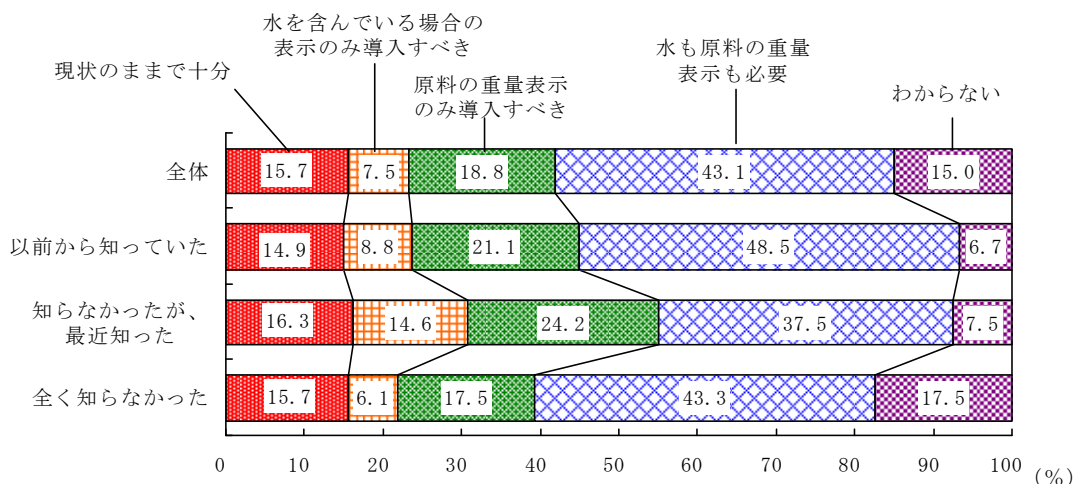
問9 日本の表示にないもので消費者への情報提供として必要不可欠と考えられる表示はどれですか。（○は1つ）



（備考）回答者数は1,807人である。

問8における、B国が日本の表示であるということを知っているかどうかの質問で、「以前から知っていた」とした人、「知らなかったが、最近知った」とした人、「全く知らなかった」とした人が、それぞれどのような意識を持っているかを見てみたところ、原材料表示を「現状のままで十分」とした人の割合は、いずれも15%前後である一方、「水も原料の重量表示も必要」とした人の割合がいずれも一番多いが、中でも「以前から知っていた」人の方が高かった（48.5%）。

第9-2図 原材料表示の認知度別に見た原材料表示への意識



（備考）1. 「問8 B国が日本の表示であるということを知っていましたか。」という質問に対して回答した人が「問9 日本の表示にないもので消費者への情報提供として必要不可欠と考えられる表示はどれですか」という質問に、それぞれどのように回答したかを見るために、問8と問9間でクロス集計したものである。
2. 回答者数は1,807人である。

問10 上記の例のように日本では、食品添加物の簡易名称、類別名など同じ食品添加物にいろいろな名前が認められている上、物質名を省いて用途名だけの一括表示が認められているものもあります。一方、例えば、欧州諸国では用途名だけでなく、物質名も記載が必要になっています。あなたは食品添加物はどのような表示方法が望ましいと思いますか。(〇はいくつでも)

<参 考>

- 簡略名、類別名が定められている添加物の例

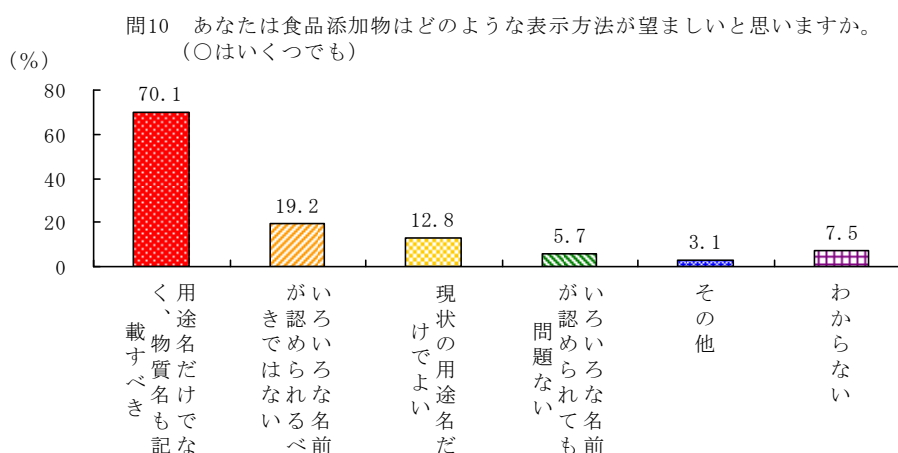
名 称	簡略名又は類別名
L-アスコルビン酸ナトリウム	ビタミンC、VC
炭酸水素ナトリウム	重曹
硫酸アルミニウムカリウム	ミョウバン

- 同じ使用目的の成分が入っている添加物は、次の14種類の用途で使用する場合一括表示が認められています。

イーストフード、ガムベース、かんすい、苦味料、酵素、光沢剤、香料又は合成香料、酸味料、軟化剤、調味料、豆腐用凝固剤、乳化剤、pH調整剤、膨張剤

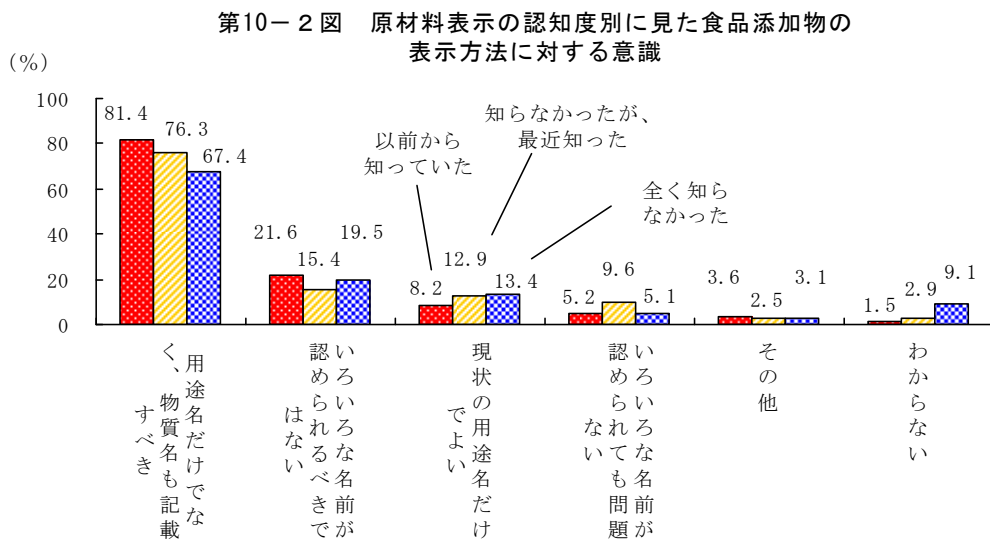
食品添加物の表示方法として望ましいものとして、「用途名だけでなく、物質名も記載すべき」とした人が70.1%で最も多かった。一方、「現状の用途名だけでよい」とした人は12.8%であった(第10-1図)。なお、男女別、年齢別に見ても差はあまり見られなかった。

第10-1図 食品添加物の表示方法として望ましいもの(全体)



(備考) 回答者数は1,807人である。

問8における、B国が日本の表示であるということを知っているかどうかの質問で、「以前から知っていた」とした人、「知らなかったが、最近知った」とした人、「全く知らなかった」とした人が、それぞれどのような意識を持っているかを見てみたところ、日本の原料原産地表示を「以前から知っていた」人の方が、食品添加物の表示方法を「用途名だけでなく、物質名も記載すべき」とした割合が「全く知らなかった」人よりも高かった（「全く知らなかった」人は「わからない」が他より高くなっている）。（第10-2図）



- (備考) 1. 「問8 B国が日本の表示であるということ、あなたは知っていましたか。」という質問に対して回答した人が「問10 あなたは食品添加物はどのような表示方法が望ましいと思いますか」という質問に、それぞれどのように回答したかを見るために、問8と問10間でクロス集計したものである。
2. 回答者数は1,807人である。

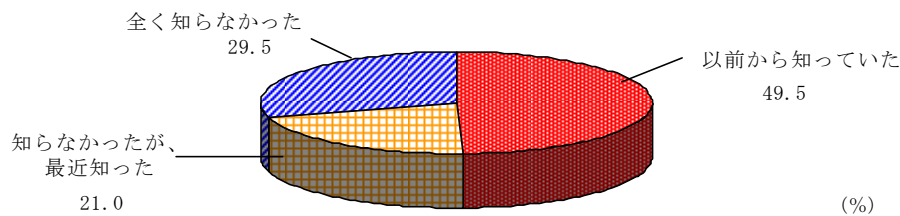
(原産地表示について)

問11 海外で生まれた家畜でも、他の国々より長い期間、国内でエサをやり育てられて(飼養)、と畜(注)されれば国産品と表示されることを、あなたは知っていましたか。(○は1つだけ)

海外で生まれた家畜でも、他の国々より長い期間、国内でエサをやり育てられて、と畜されれば国産品となることを「知っている」(「以前から知っていた」と「知らなかったが、最近知った」の合計)とした人は、全体で見ると70.5%であった。(第11-1図)

第11-1図 飼養期間によって異なる原産地表示の認知度(全体)

問11 海外で生まれた家畜でも、他の国々より長い期間、国内でエサをやり育てられて(飼養)、と畜されれば国産品と表示されることを、あなたは知っていましたか。○は1つ

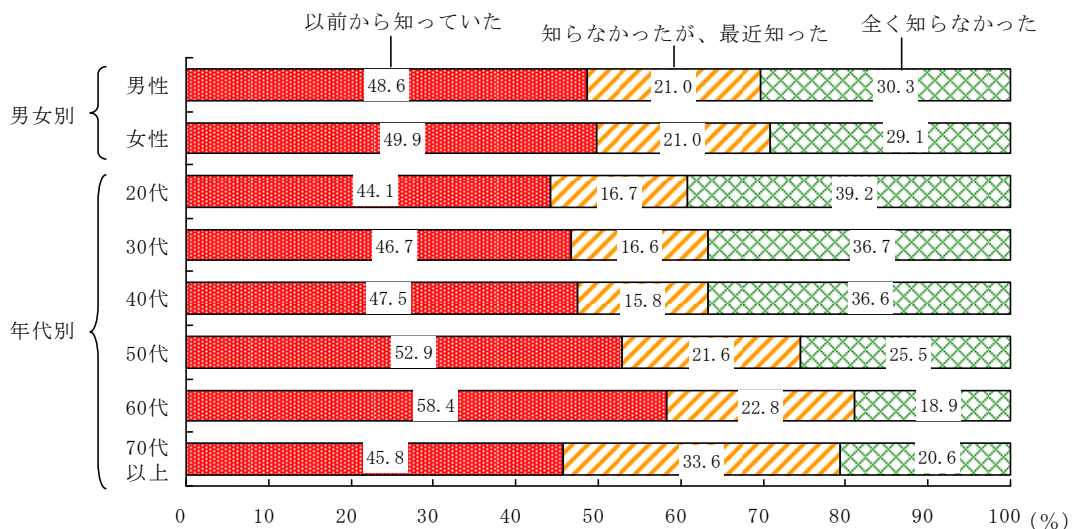


(備考) 回答者数は1,807人である。

男女別に見ると、男性と女性でほとんど差は見られないが、年代別に見ると、「知っている」と回答した人の割合は50代以上で高く、50代が74.5%、60代が81.2%、70代以上が79.4%であるが、40代以下ではそれにくらべて低い傾向にある(60%前後)。(第11-2図)

第11-2図 飼養期間によって異なる原産地表示の認知度(男女別・年代別)

問11 海外で生まれた家畜でも、他の国々より長い期間、国内でエサをやり育てられて(飼養)、と畜されれば国産品と表示されることを、あなたは知っていましたか。○は1つ



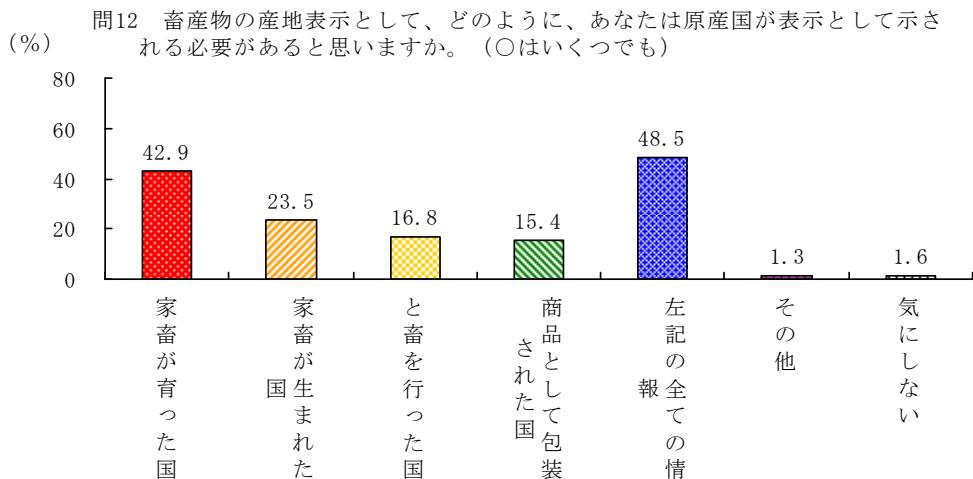
(備考) 回答者数は1,807人である。

問12 今日、原産国を示す方法には様々なものがあります。例えば、食肉に関しては家畜が生まれた国、育った国、屠殺された国、商品として包装された国がありえます。果物と野菜に関しても果物または野菜が育った国、製品が製造された国、包装された国がありえます。特定の食品に関して選択をすることを可能にするために、例えば、畜産物の産地表示として、どのように、あなたは原産国が表示として示される必要があると思いますか。次の中から該当するものを全て選んで下さい。(〇はいくつでも)

畜産物の産地表示として、原産国が表示としてどのように示される必要があるか尋ねたところ、「家畜が育ったところ」、「家畜が生まれた国」、「と畜を行った国」、「商品として包装された国」の全ての情報とした人が48.5%と最も高かった。(第12-1図)

個別にみると、次の「家畜が育った国」が42.9%と高かったが、選択肢の組み合わせで見ても全ての情報の次は「家畜が育った国」のみを選んだ人(15.4%)で、「家畜が育った国」と「家畜が生まれた国」の2つを選んだ人(8.4%)が続いた。

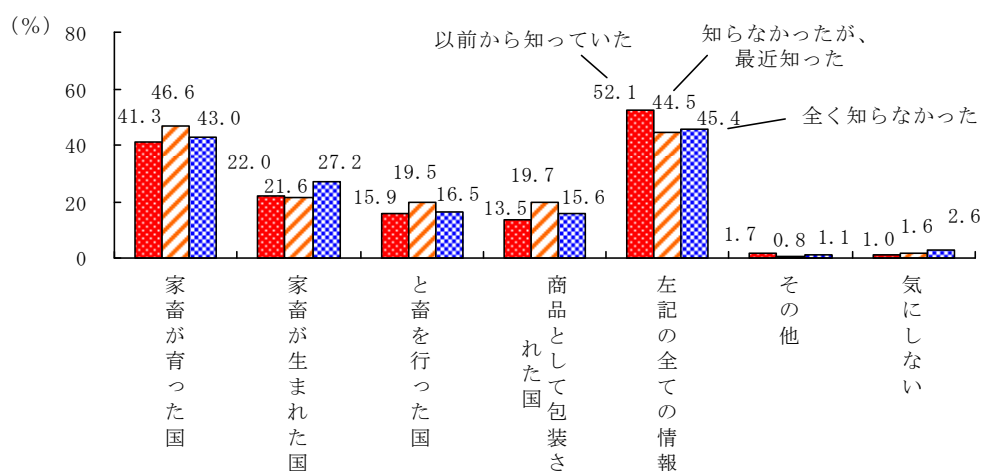
第12-1図 畜産物の原産国の表示方法として必要なもの(全体)



(備考) 回答者数は1,807人である。

飼養期間によって原産地表示が変わることについての認知度と畜産物の産地表示として、原産国が表示としてどのように示される必要があると思うかの関係を見たところ、飼養期間によって原産地表示が変わることについて「以前から知っていた」人と「全く知らなかった」人は、「家畜が育ったところ」、「家畜が生まれた国」、「と畜を行った国」、「商品として包装された国」の全ての情報とした人が最も多かった（それぞれ52.1%、45.4%）が、「知らなかったが、最近知った」人は、すべてとした人よりも「家畜が育った国」とした人の方がわずかであるが上回った（それぞれ、44.5%、46.6%）。一方、飼養期間によって原産地表示が変わることを「全く知らなかった」人は、「知っている」（「以前から知っていた」または「知らなかったが、最近知った」）人に比べて、原産国が表示の仕方を「気にしない」人がやや多かった（2.6%）。（第12-2図）

第12-2図 飼養期間によって原産地表示が変わることについての認知度と表示として必要なものの関係（全体）



- (備考) 1. 「問11 海外で生まれた家畜でも、他の国々より長い期間、国内でエサをやり育てられて（飼養）、と畜(注)されれば国産品と表示されることを、あなたは知っていましたか」という質問に対して回答した人が、「問12 今日、原産国を示す方法には様々なものがあります。例えば、食肉に関しては家畜が生まれた国、育った国、屠殺された国、商品として包装された国があります。果物と野菜に関しても果物または野菜が育った国、製品が製造された国、包装された国があります。特定の食品に関して選択をすることを可能にするために、例えば、畜産物の産地表示として、どのように、あなたは原産国が表示として示される必要があると思いますか。次の中から該当するものを全て選んで下さい」という質問に、それぞれどのように回答したかを見るために、問11と問12間でクロス集計したものである。
2. 回答者数は1,807人である。

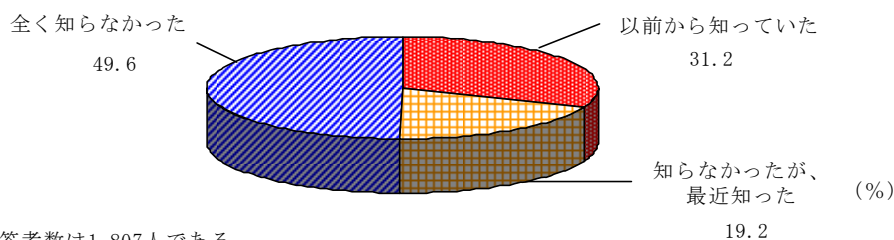
問 13 加工食品の原料原産地名は、生鮮食品に近い 20 の加工食品群（乾燥しいたけ、タレ付き牛肉、あじの開きなど）に表示が義務づけられており、対象となる加工食品の主な原材料(注)について原産地が表示されています。つまり、この定義にあてはまらない食品群だったり、主な原材料でない場合、「原産地国名が記載されていないことは必ずしも国産ではないこと」を、あなたは知っていましたか（例えば、缶詰、レトルトパウチ食品、焼豚、刺身盛り合わせなど）。（○は1つだけ）

(注) 主な原材料とは、原材料に占める重量の割合が最も多い生鮮食品で、かつ当該割合が50%以上であるもの

加工食品の原料原産地表示について、生鮮食品に近い 20 の加工食品群で、対象となる加工食品の主な原材料については原産地表示が義務づけられているが、それ以外は義務づけられていないので、表示がない場合でも国産とは限らない。このことを知っているか尋ねたところ、全体で見ると 49.6% とほぼ半数の人が「全く知らなかった」と回答した。（第 13-1 図）

第 13-1 図 加工食品の原料原産地表示方法の認知度（全体）

問 13 加工食品の原料原産地名は、義務づけられている食品群でない場合等は「原産地国名が記載されていないことは必ずしも国産ではないこと」をあなたは知っていましたか。（○は1つ）

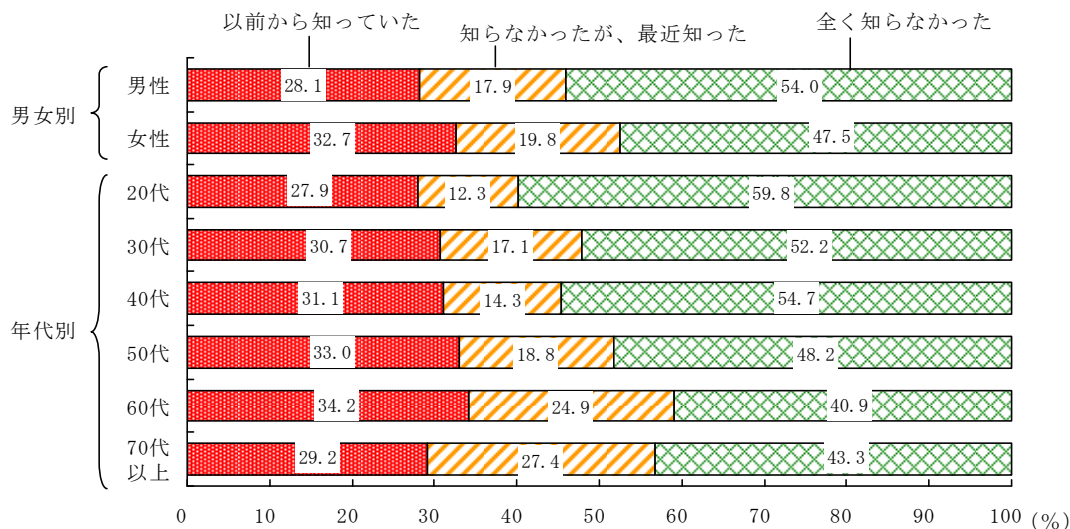


(備考) 回答者数は1,807人である。

男女別に見ると、「全く知らなかった」人は女性（47.5%）よりも男性（54.0%）の方が多かった。また、年代別に見ると、「全く知らなかった」とした人は 20 代で最も多く 59.8%、60 代で最も少なく 40.9%であった。（第 13-2 図）

第 13-2 図 加工食品の原料原産地表示方法の認知度（男女別・年代別）

問 13 加工食品の原料原産地名は、義務づけられている食品群でない場合等は「原産地国名が記載されていないことは必ずしも国産ではないこと」をあなたは知っていましたか。（○は1つ）



(備考) 回答者数は1,807人である。

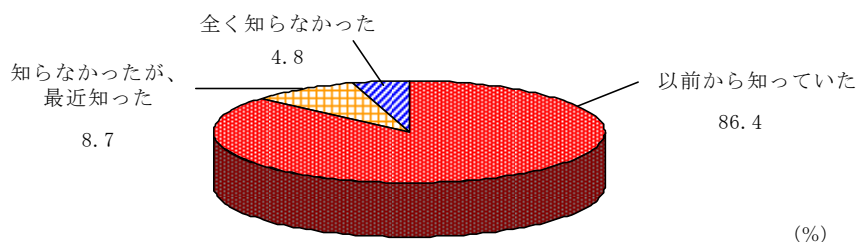
(期限表示について)

問 14 賞味期限は、定められた方法により保存した場合において、おいしく食べることができる期限であり、この期限を過ぎても、すぐ食べられないということではありません。消費期限は、定められた方法により保存した場合において、期限を過ぎたら食べない方がよい期限です。あなたは二つの期限の違いを知っていましたか。(○は1つだけ)

賞味期限と消費期限の違いの認知度については、全体で見ると、「以前から知っていた」とした人は 86.4%であり、「知らなかったが、最近知った」人の 8.7%を合わせると、95%以上の人が知っていた。(第 14-1 図)

第 14-1 図 賞味期限と消費期限の違いの認知度 (全体)

問 14 あなたは賞味期限と消費期限の違いを知っていましたか。(○は1つ)

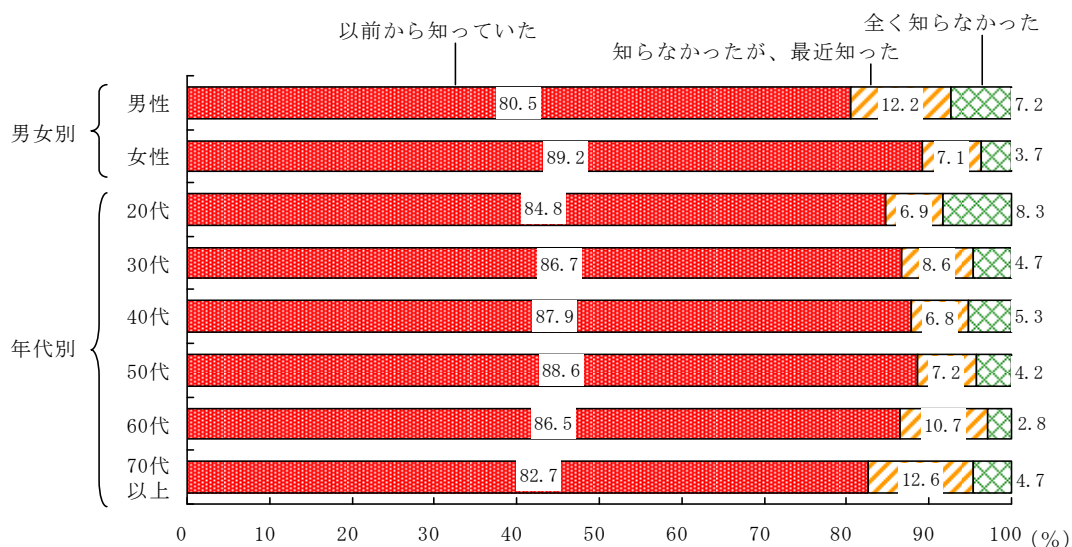


(備考) 回答者数は1,807人である。

男女別に見てみると、「全く知らなかった」ひとの割合は女性 (3.7%) よりも男性 (7.2%) の方が高く、年代別に見ると、20代は他の年代に比べて「全く知らなかった」人の割合が 8.3%と高い。

第 14-2 図 賞味期限と消費期限の違いの認知度 (男女別・年代別)

問 14 あなたは賞味期限と消費期限の違いを知っていましたか。(○は1つ)



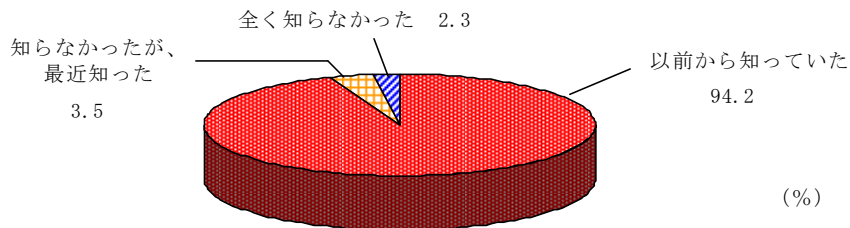
(備考) 回答者数は1,807人である。

問15 期限表示については、開封前の期限が表示されているため、一度開封した食品については、表示している期限にかかわらず、早めに食べた方が良いということを、あなたは知っていましたか。(〇は1つだけ)

期限表示は開封前の期限が表示されているため、一度開封した食品は表示されている期限にかかわらず、早めに食べた方が良いということを知っていたか尋ねたところ、全体でも、年代別に見ても、9割以上の方が「以前から知っていた」と回答した。(第15図)

第15図 一度開封した食品は、表示の期限に関わらず、早めに食べた方が良いことの認知度(全体)

問15 期限表示については、開封前の期限が表示されているため、一度開封した食品については、表示している期限にかかわらず、早めに食べた方が良いということを、あなたは知っていましたか。(〇は1つ)



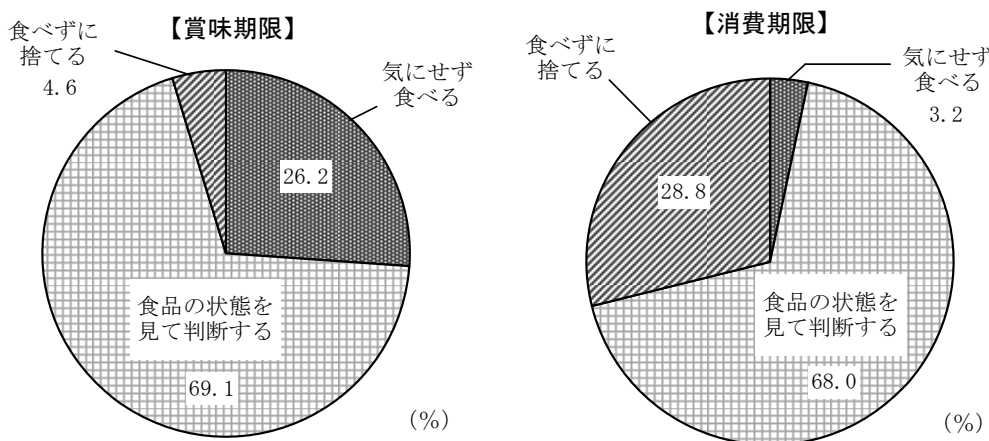
(備考) 回答者数は1,807人である。

問16 購入した商品が開封前に賞味期限又は消費期限を過ぎてしまった場合、通常、あなたはどのような行動をとっていますか。(賞味期限は、スナック菓子、カップめん等を想定、消費期限は、弁当、サンドイッチ等を想定) (〇は1つだけ)

購入した商品が開封前に賞味期限又は消費期限を過ぎてしまった場合、どのような行動をとっているか尋ねたところ、賞味期限、消費期限のいずれの場合でも「食品の状態を見て判断する」が7割弱で最も多い。賞味期限の場合は、「気にせず食べる」が26.2%、「食べずに捨てる」が4.6%である一方、消費期限の場合は、「食べずに捨てる」が28.8%、「気にせず食べる」が3.2%であった。(第16図)

第16図 開封前の商品の期限が過ぎた場合にとる行動

問16 購入した商品が開封前に賞味期限又は消費期限を過ぎてしまった場合、通常、あなたはどのような行動をとっていますか。(〇は1つ)



(備考) 回答者数はそれぞれ1,807人である。

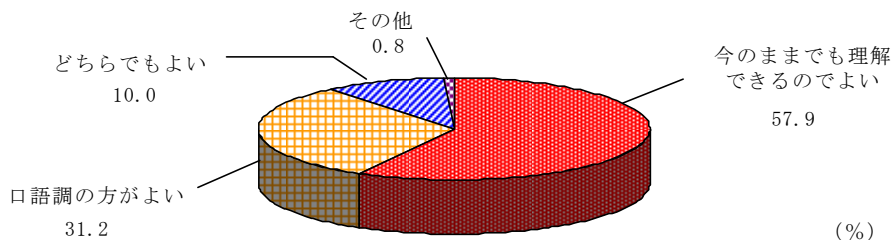
問17 期限表示について、我が国では「賞味期限:0年0月0日」「消費期限:0年0月0日」となっています。一方、海外では賞味期限は「以下の日より以前が最適:0年0月0日」消費期限は「以下の日まで使用可能:0年0月0日」という口語調となっています。あなたは今後の期限表示としてはどちらが望ましいと思いますか。(〇は1つだけ)

期限表示について、これまでどおりの「賞味期限:0年0月0日」のような表示と口語調にした「以下の日より以前が最適:0年0月0日」の表示とどちらが望ましいか尋ねたところ、「口語調の方がよい」とした人が31.2%であったのに対し、「今のままでも理解できるのでよい」とした人が57.9%と半数以上を占めた。(第17-1図)

年代別に見ても、すべての年代で「今のままでも理解できるのでよい」が5割以上、「口語調の方がよい」が3割程度という結果であった。

第17-1図 今後の期限表示の望ましい表示方法(全体)

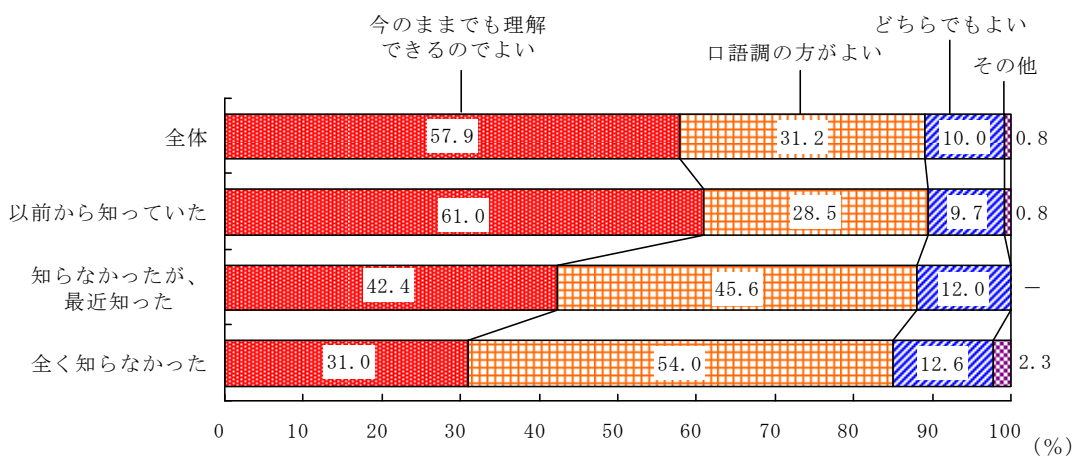
問17 期限表示について、日本のこれまでどおりの表示方法と海外の口語調の表示方法とでは、今後の期限表示としてはどちらが望ましいと思いますか。(〇は1つ)



(備考) 回答者数は1,807人である。

賞味期限と消費期限の違いを知っている人・知らない人の違いによって、今後の期限表示の望ましい表示方法に対する意識の違いがあるか見てみると、賞味期限と消費期限の違いを「以前から知っていた」人では「今のままでも理解できるのでよい」とした人が61.0%と多いものの、賞味期限と消費期限の違いを「全く知らなかった」人では「口語調の方がよい」とした人が54.0%と多かった。(第17-2図)

第17-2図 期限表示の違いの認知度と今後の期限表示へ望むこと



(備考) 1. 「問14 あなたは賞味期限と消費期限の違いを知っていましたか」という質問に対して回答した人が「問17 期限表示について、日本のこれまでどおりの表示方法と海外の口語調の表示方法とでは、今後の期限表示としてはどちらが望ましいと思いますか」という質問に、それぞれどのように回答したかを見るために、問14と問17間でクロス集計したものである。
2. 回答者数は1,807人である。

問 18 牛乳、スライスハムなど日本では通常、おいしく食べられるかを問題とする賞味期限が付されていますが、海外では国によってその期限を過ぎたら消費しない方がよい消費期限を付されている国があります。どちらも科学的根拠によって期限を設けることになっていますが、同じ食品でも違いが出るのはそれぞれの国で判断基準の設け方のためです（判断基準は詳細に示されていますが、大まかな判断基準の例は以下の通り）。あなたはこれらの食品について、どちらの期限表示の方が消費者としての認識と基準のズレが少ないと感じますか。（○は1つだけ）

<判断基準の例>

日本：品質が急速に劣化する食品には「消費期限」を表示すべきと考えられる。

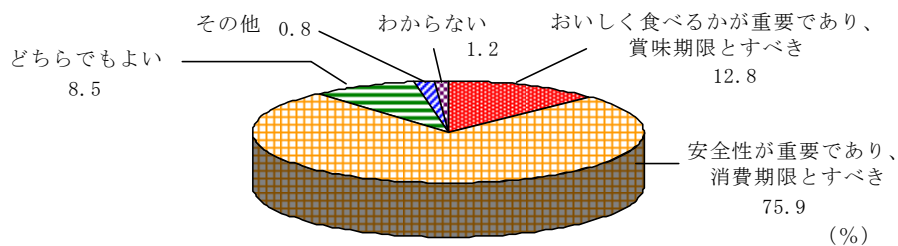
英国：「消費期限」を表示しなければならないのは、品質保持のためではなく安全性確保のために低温（通常8度以下）で保存する必要がある食品である。

豪州：「消費期限」は健康上または安全上の問題を引き起こしうる食品に限定される。

賞味期限の表示と消費期限の表示で、どちらの期限表示の方が消費者としての認識と基準のズレが少ないか尋ねると、「安全性が重要であり、消費期限とすべき」とした人が75.9%と多数を占めた。一方、「おいしく食べるかが重要であり、賞味期限とすべき」は12.8%であった（第18図）。なお、年代別に見ると、特に70歳以上が80.5%と高かった。

第18図 消費者の認識と基準のズレが少ない期限表示方法（全体）

問18 賞味期限と消費期限で、どちらの期限表示の方が消費者としての認識と基準のズレが少ないと感じますか。（○は1つ）



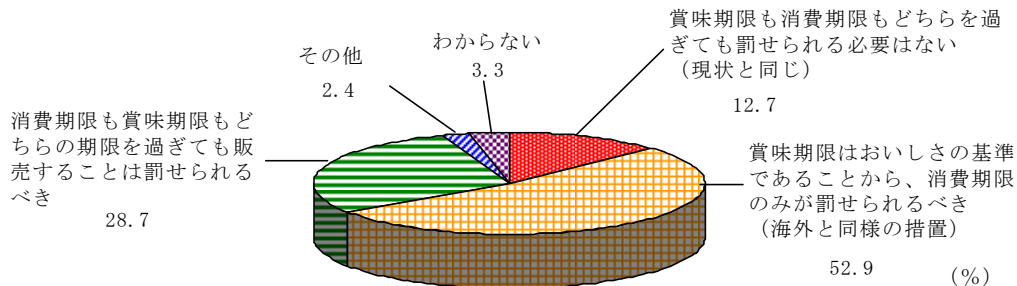
（備考）回答者数は1,807人である。

問 19 海外では国によって安全面から、安全性を重視した消費期限を過ぎて販売した場合、その事業者には罰則がかけられます（ただし、賞味期限に罰則はない）。一方、我が国では期限表示の付け替えなど改ざんは違法ですが、食品が衛生的に安全である場合は消費期限を過ぎて販売しただけで直ちに罰せられません。このことをあなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

日本では食品が衛生的に安全である場合は消費期限を過ぎて販売しただけで直ちに罰せられないことについて、このことをどう思うか尋ねたところ、「賞味期限はおいしさの基準であることから、消費期限のみが罰せられるべき（海外と同様の措置）」が 52.9%と半数を占めた。また、「消費期限も賞味期限もどちらの期限を過ぎても販売することは罰せられるべき」とした人も 28.7%いた。なお、「賞味期限も消費期限もどちらを過ぎても罰せられる必要はない（現状と同じ）」と回答した人は 12.7%であった。（第 19－1 図）

第19－1図 期限表示違反に対する罰則の必要性（全体）

問19 海外では国によって安全面から、安全性を重視した消費期限を過ぎて販売した場合、その事業者には罰則がかけられます（ただし、賞味期限に罰則はない）。一方、我が国では期限表示の付け替えなど改ざんは違法ですが、食品が衛生的に安全である場合は消費期限を過ぎて販売しただけで直ちに罰せられません。このことをあなたはどのように思いますか。（○は1つ）

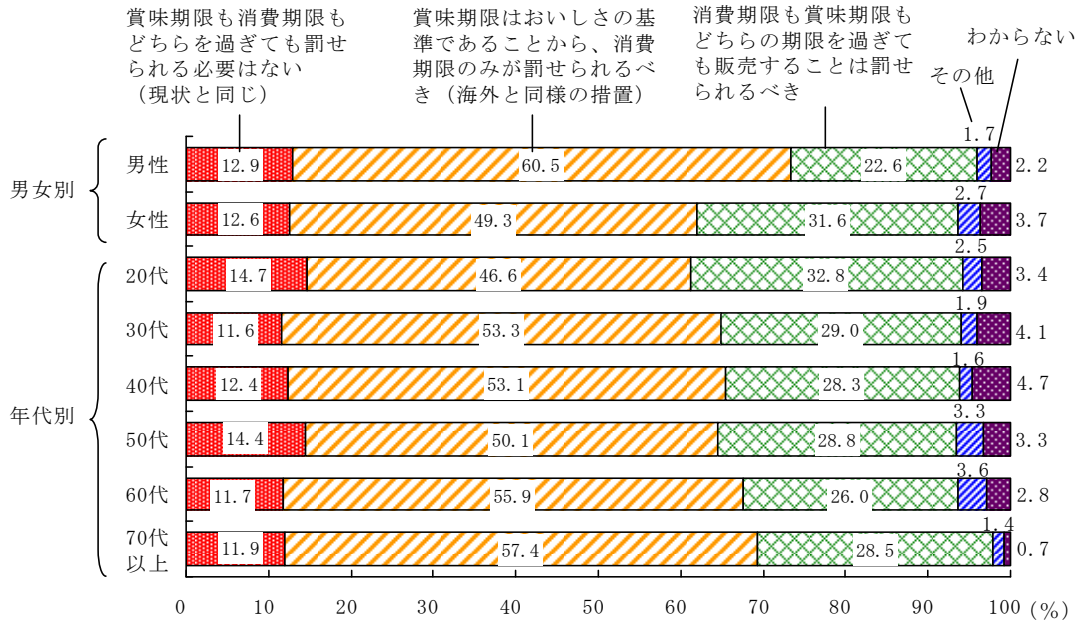


（備考）回答者数は1,807人である。

男女別に見ると、男性は「賞味期限はおいしさの基準であることから、消費期限のみが罰せられるべき（海外と同様の措置）」が60.5%と高く、年代別では70代以上（57.4%）、60代（55.9%）などが高かった。（第19-2図）

第19-2図 期限表示違反に対する罰則の必要性（男女別・年代別）

問19 海外では国によって安全面から、安全性を重視した消費期限を過ぎて販売した場合、その事業者には罰則がかけられます（ただし、賞味期限に罰則はない）。一方、我が国では期限表示の付け替えなど改ざんは違法ですが、食品が衛生的に安全である場合は消費期限を過ぎて販売しただけで直ちに罰せられません。このことをあなたはどのように思いますか。（○は1つ）



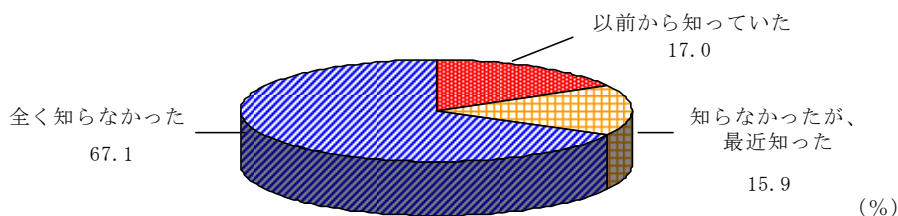
（備考）回答者数は1,807人である。

問 20 遺伝子組換え食品は、我が国では原材料に占める重量の割合が上位 3 品目以内で、かつ全原材料に占める重量の割合が 5 %以上の原材料について表示義務があり、上位 4 品目であれば、その重量が 2 4 %であっても表示義務の対象外です。また、食用油や醤油など、組み換えられた DNA 及びこれによって生じたたん白質が加工工程で除去・分解され、ひろく認められた最新の検出技術によってもその検出が不可能とされている加工食品については、表示義務はありませんし、レストランや病院といった外食で提供される料理、畜産物への飼料なども対象外です。あなたはこうした表示規定を知っていましたか。(○は 1 つだけ)

遺伝子組み換え食品の表示規定の詳細について、「知っている」(「以前から知っていた」と「知らなかったが、最近知った」の合計)とした人は、全体で見ると 32.9%で、多くの人が「全く知らない」(67.1%)と回答した。(第 20-1 図)

第 20-1 図 遺伝子組換え食品の表示規程についての認知度 (全体)

問 20 遺伝子組換え食品は、我が国では原材料に占める重量の割合が上位 3 品目以内で、かつ全原材料に占める重量の割合が 5 %以上の原材料について表示義務があり、上位 4 品目であれば、その重量が 2 4 %であっても表示義務の対象外です。また、食用油や醤油など、組み換えられた DNA 及びこれによって生じたたん白質が加工工程で除去・分解され、ひろく認められた最新の検出技術によってもその検出が不可能とされている加工食品については、表示義務はありませんし、レストランや病院といった外食で提供される料理、畜産物への飼料なども対象外です。あなたはこうした表示規定を知っていましたか。(○は 1 つ)

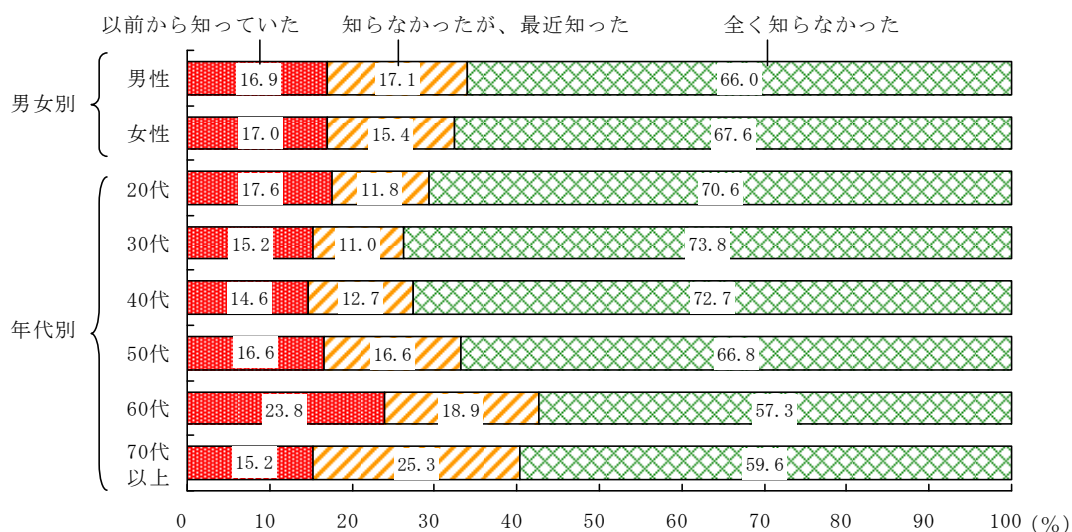


(備考) 回答者数は 1,807 人である。

男女別に見ると「知っている」人の割合に大きな差は見られないが、年代別に見ると、60代と70代以上は「知っている」とした人が4割程度で他の年代に比べて高いものの、20代から40代では「全く知らない」が7割を占めている。(第20—2図)

第20—2図 遺伝子組換え食品の表示規程についての認知度
(男女別・年代別)

問20 遺伝子組換え食品は、我が国では原材料に占める重量の割合が上位3品目以内で、かつ全原材料に占める重量の割合が5%以上の原材料について表示義務があり、上位4品目であれば、その重量が24%であっても表示義務の対象外です。また、食用油や醤油など、組み換えられたDNA及びこれによって生じたたん白質が加工工程で除去・分解され、ひろく認められた最新の検出技術によってもその検出が不可能とされている加工食品については、表示義務はありませんし、レストランや病院といった外食で提供される料理、畜産物への飼料なども対象外です。あなたはこうした表示規定を知っていましたか。(○は1つ)



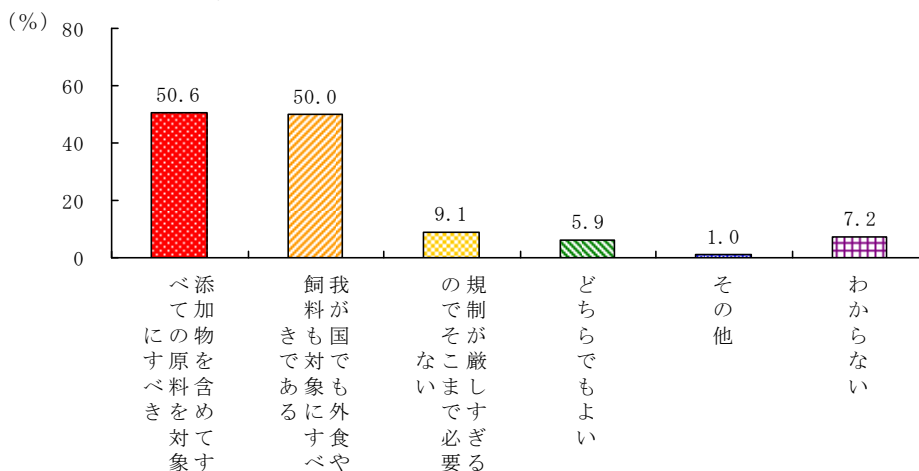
(備考) 回答者数は1,807人である。

問 21 例えば、欧州では添加物も含めてすべての遺伝子組み換え原料に表示の義務があり、また使用量の多寡による制限はありません。外食で提供される料理、畜産物への飼料なども対象です。これは商品の経路を辿るトレーサビリティが導入されていること、また有機食品やフェアトレード商品でも書類の監査によってチェックしていることから必ずしも検出技術による必要はないという考えを踏まえた処置とされています。トレーサビリティの導入にはコストがかかりますが、あなたはこうした規制をどう思いますか。
(○はいくつでも)

遺伝子組み換え原料の表示義務について、「我が国でも添加物を含めてすべての原料を対象にすべきである」が 50.6%、「我が国でも外食や飼料も対象にすべきである」が 50.0%であった。このことから、半数の人が遺伝子組み換え原料の表示義務を拡大すべきと考えていることがわかる。(第 21-1 図)

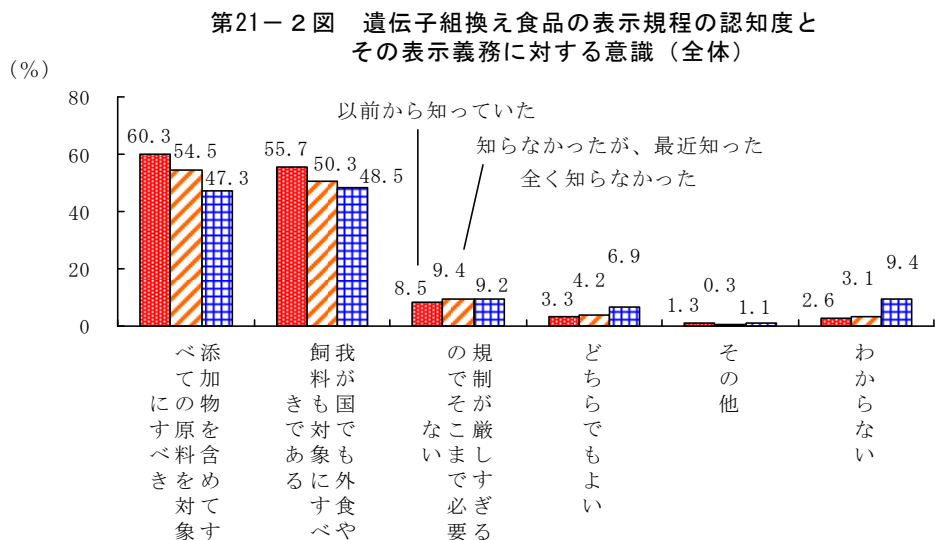
第21-1 図 遺伝子組換え原料の表示義務に対する意識 (全体)

問21 例えば、欧州では添加物も含めてすべての遺伝子組み換え原料に表示の義務があり、また使用量の多寡による制限はありません。外食で提供される料理、畜産物への飼料なども対象です。トレーサビリティの導入にはコストがかかりますが、あなたはこうした規制をどう思いますか。(○はいくつでも)



(備考) 回答者数は1,807人である。

遺伝子組換え食品の表示規定を知っているかどうかで、その表示義務に対する意識に違いがあるかどうか見てみると、「添加物を含めてすべての原料を対象にすべき」とした人は、表示規定を「以前から知っていた」人の60.3%、「知らなかったが、最近知った」人の54.5%、「全く知らなかった」人の47.3%で、表示規定を「全く知らない」人よりも「知っている」人の方がその割合が高かった。一方、「全く知らない」人は「わからない」が9.4%を占めた。(第21-2図)



- (備考) 1. 「問20 あなたは我が国の遺伝子組換え食品の表示規定を知っていましたか」という質問に対して回答した人が「問21 遺伝子組換え食品の表示義務に対する規制をどう思うか」という質問にそれぞれどのような回答したかを見るために問20と問21でクロス集計したものである。
2. 回答者数は1,807人である。

(栄養成分表示について)

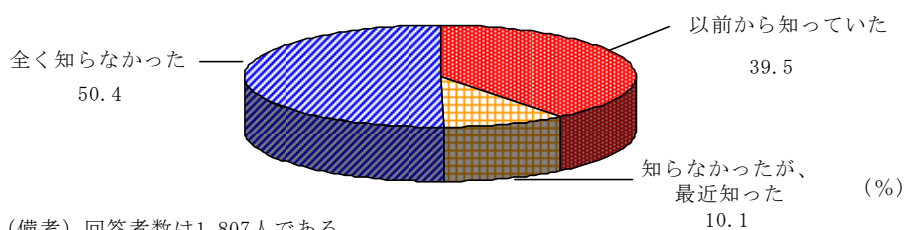
問 22 下記は、ある同一商品の栄養成分表示の例ですが、日本と海外で比較すると、項目数や順番などに違いがあります。A国が日本の表示方法であることをあなたは知っていましたか。(○は1つだけ)

(A国)	(B国)	
1食分 100g 当たり	125ml 当たり	
エネルギー 100kcal	カロリー 110cal	
タンパク質 1.0g		日量%
脂質 10g	脂肪 7g	11%
炭水化物 10g	飽和脂肪 1g	5%
ナトリウム 1000mg	トランス脂肪 0g	
	コレステロール 5mg	
	ナトリウム 850mg	35%
	炭水化物 10g	3%
	繊維 1g	4%
	糖類 1g	
	タンパク質 2g	
	ビタミンA 0%	
	ビタミンC 0%	
	カルシウム 2%	
	鉄分 8%	

日本の栄養成分の表示方法について、「全く知らない」とした人が、全体で見ても 50.4%と半数を占めた。(第 22-1 図)

第22-1図 栄養成分の表示方法についての認知度(全体)

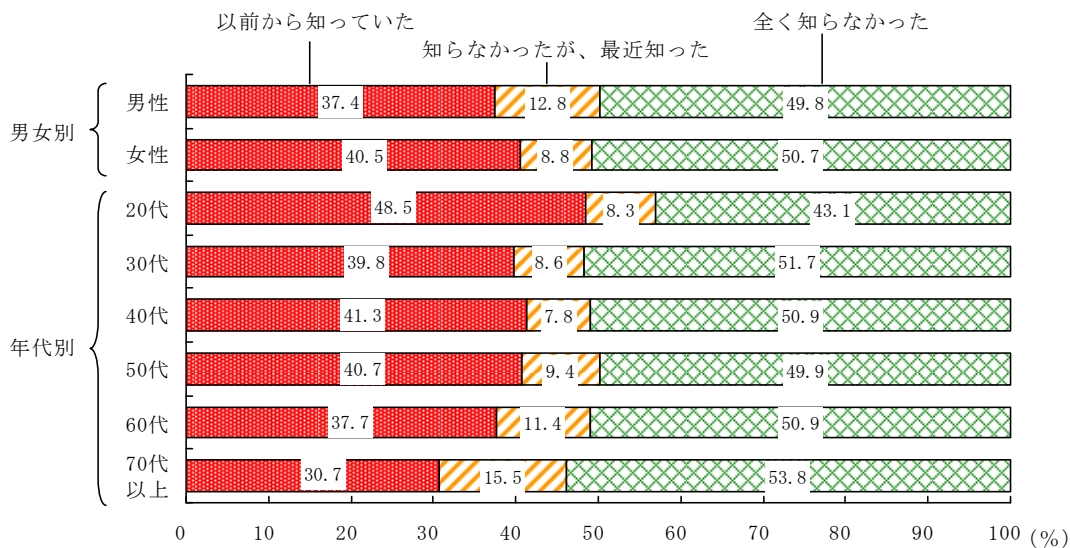
問22 A国が日本の表示方法であることをあなたは知っていましたか。(○は1つ)



男女別に見ると、「知っている」（「以前から知っていた」と「知らなかったが、最近知った」の合計）とした人の割合に大きな差は見られなかったが、年代別に見ると、20代で「知っている」とした人は56.9%と他の年代に比べて高いものの、30代以上では半数が「全く知らない」と回答した。（第22-2図）

第22-2図 栄養成分の表示方法についての認知度（男女別・年代別）

問22 A国が日本の表示方法であることをあなたは知っていましたか。（○は1つ）



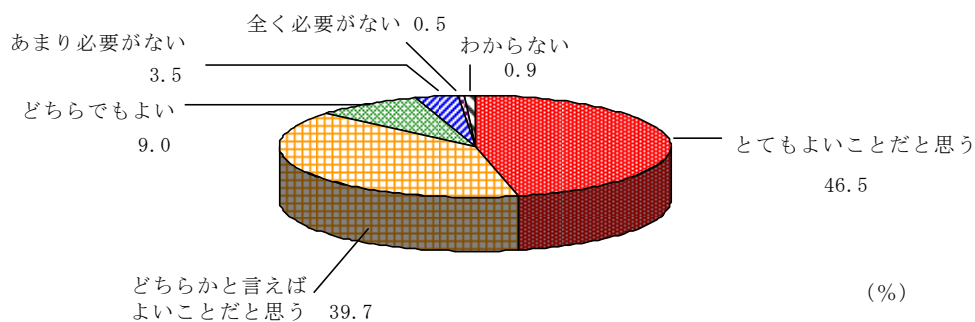
（備考）回答者数は1,807人である。

問 23 現在、栄養成分表示は、ほとんどの海外主要国で義務化されているところですが、日本では、「1個当たり40kcal」、「脂肪分20%カット」等と表示して販売する場合に限り栄養成分表示が義務づけられており、基本的には任意表示です。今後、すべての食品について、栄養成分表示を義務化することについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

すべての食品に栄養成分表示を義務化することについてどう思うか尋ねたところ、「よいことだと思う」（「とてもよいことだと思う」と「どちらかと言えばよいことだと思う」の合計）とした人が86.2%と多数を占めた。一方、「必要がない」（「あまり必要がない」と「全く必要がない」の合計）とした人は4.0%であった。（第23-1図）

第23-1図 すべての食品の栄養成分表示義務化についての意識（全体）

問23 現在、栄養成分表示は、ほとんどの海外主要国で義務化されているところですが、日本では、「1個当たり40kcal」、「脂肪分20%カット」等と表示して販売する場合に限り栄養成分表示が義務づけられており、基本的には任意表示です。今後、すべての食品について、栄養成分表示を義務化することについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

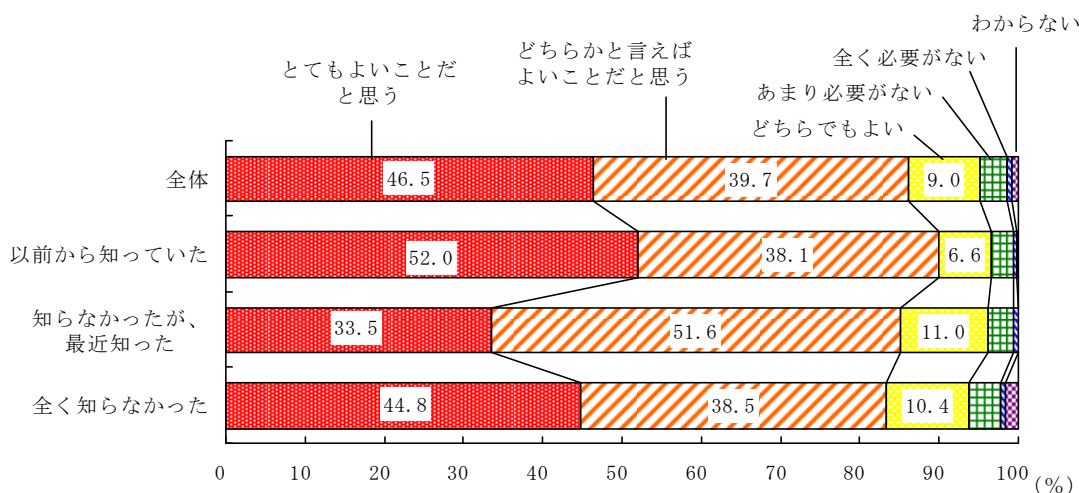


（備考）回答者数は1,807人である。

栄養成分の表示方法について知っているかどうかで、その表示義務化に対する意識に違いがあるかどうか見てみると、栄養成分の表示方法を「以前から知っていた」人の52.0%は栄養成分表示の義務化を「とてもよいことだと思う」と回答している。一方、栄養成分の表示方法を「全く知らなかった」人で栄養成分表示の義務化を「とてもよいことだと思う」と回答した人が最も多いが、その割合は44.8%で、「以前から知っていた」人に比べてやや少ない。

また、栄養成分表示の義務化を「よいことだと思う」（「とてもよいことだと思う」と「どちらかと言えばよいことだと思う」の合計）とした人は、栄養成分の表示方法を「全く知らなかった」人よりも、「以前から知っていた」人と「知らなかったが、最近知った」人で割合が若干高い（それぞれ83.3%、90.1%、85.2%）（第21-2図）。

第23-2図 認知度別に見た栄養成分表示義務化への意識



- (備考) 1. 「問22 A国が日本の表示方法であるということを、あなたは知っていましたか」という質問に対して回答した人が「問23 すべての食品について、栄養成分表示を義務化することについて、あなたはどう思いますか」という質問に、それぞれどのように回答したかを見るために、問22と問23間でクロス集計したものである。
 2. 回答者数は1,807人である。

第23-2図 詳細データ

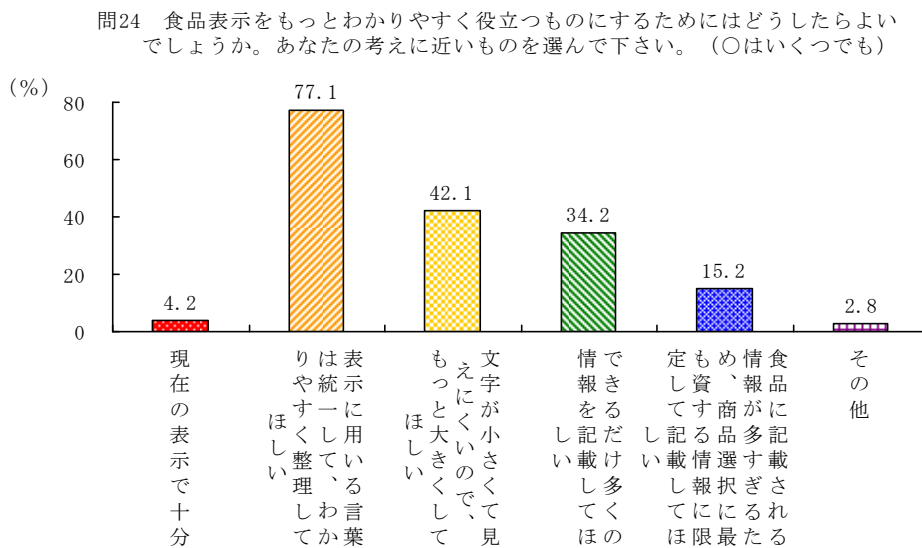
単位：%

問22 \ 問23	とてもよいことだと思う	どちらかと言えばよいことだと思う	どちらでもよい	あまり必要がない	全く必要がない	わからない	合計
全体	46.5	39.7	9.0	3.5	0.5	0.9	100.0
以前から知っていた	52.0	38.1	6.6	2.8	0.3	0.3	100.0
知らなかったが、最近知った	33.5	51.6	11.0	3.3	0.5	-	100.0
全く知らなかった	44.8	38.5	10.4	4.1	0.7	1.5	100.0

問24 食品表示をもっとわかりやすく役立つものにするためにはどうしたらよいでしょうか。
あなたの考えに近いものを選んで下さい。(〇はいくつでも)

食品表示をもっとわかりやすく役立つものにするためにどうしたらよいか尋ねたところ、全体で見ると、「表示に用いる言葉は統一してわかりやすく整理してほしい」が77.1%で最も多く、次いで「文字が小さくて見えにくいので、もっと大きくしてほしい」が42.1%、「できるだけ多くの情報を記載してほしい」が34.2%であった。(第24-1図)

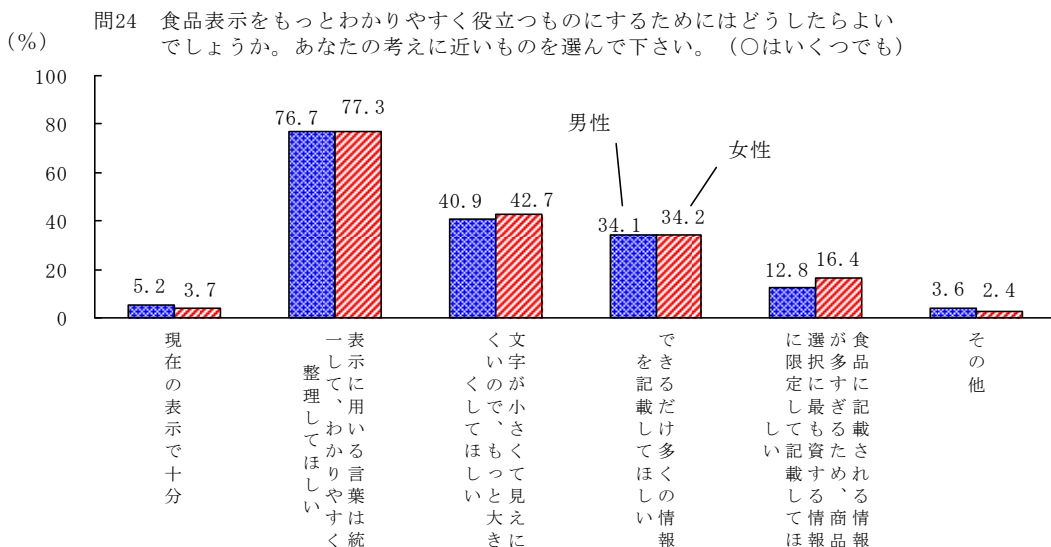
第24-1図 食品表示をわかりやすく役立つものにするための方策(全体)



(備考) 回答者数は1,807人である。

男女別に見ると、男女差はほとんど見られないが、「食品に記載される情報が多すぎるため、商品選択に最も資する情報に限定して記載してほしい」という回答が、男性(12.8%)よりも女性(16.4%)が3.6%ポイント高かった。(第24-2図)

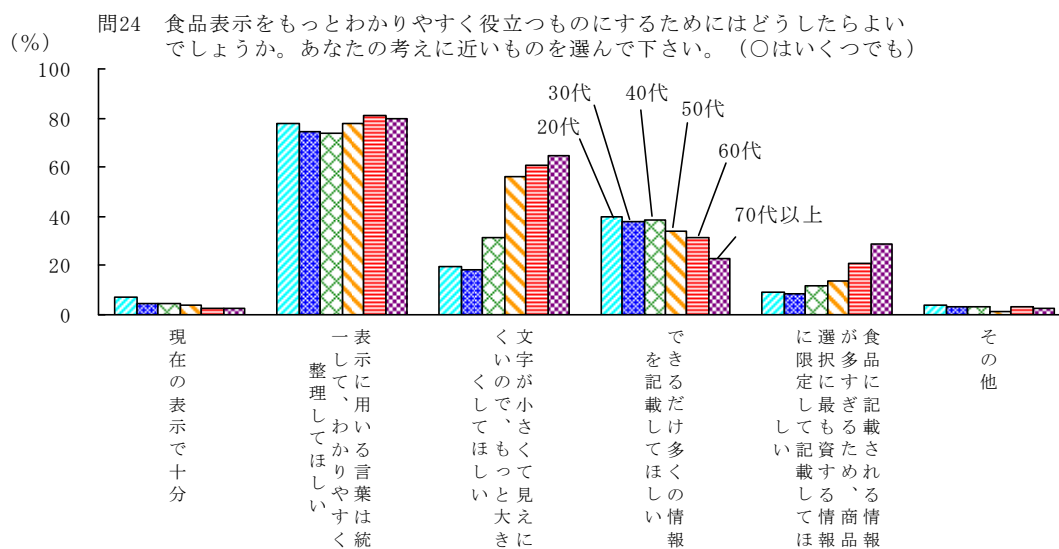
第24-2図 食品表示をわかりやすく役立つものにするための方策(男女別)



(備考) 回答者数は1,807人である。

年代別に見ると、「文字が小さくて見えにくいので、もっと大きくしてほしい」と「食品に記載される情報が多すぎるため、商品選択に最も資する情報に限定して記載してほしい」という回答には年代による差が見られる。「文字が小さくて見えにくいので、もっと大きくしてほしい」という回答は、20代から40代では比較的低いものの、50代以上では高く、さらに年代が上がるほど高くなっている。また、「食品に記載される情報が多すぎるため、商品選択に最も資する情報に限定して記載してほしい」という回答でも、60代以上が比較的高く、年代が上がるほど高くなる傾向にある。一方、「できるだけ多くの情報を記載して欲しい」という回答は50代以上で年代が上がるほど低くなっており、70歳以上では「できるだけ多くの情報を記載して欲しい」よりも「食品に記載される情報が多すぎるため、商品選択に最も資する情報に限定して記載してほしい」の方が多くなっている（それぞれ22.7%、28.5%）。（第24-3図）

第24-3図 食品表示をわかりやすく役立つものにするための方策（年代別）



（備考）回答者数は1,807人である。

第24-3図 詳細データ

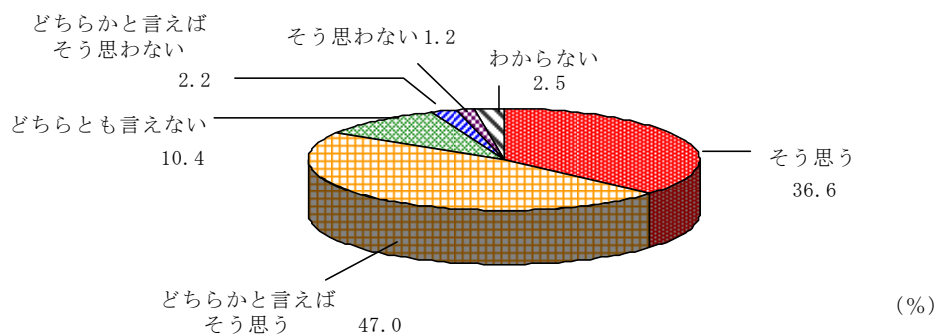
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
現在の表示で十分	7.4	4.7	4.7	3.6	2.8	2.5
表示に用いる言葉は統一して、わかりやすく整理してほしい	77.9	74.3	73.6	77.8	80.8	79.4
文字が小さくて見えにくいので、もっと大きくしてほしい	19.6	18.5	31.4	56.0	60.9	65.0
できるだけ多くの情報を記載してほしい	40.2	37.8	38.8	34.1	31.3	22.7
食品に記載される情報が多すぎるため、商品選択に最も資する情報に限定して記載してほしい	9.3	8.3	11.8	13.9	21.0	28.5
その他	3.9	3.0	3.1	1.4	3.2	2.9

問 25 食品トレーサビリティシステムは、食品の取扱いの記録を残すことにより、食品の移動を把握できるようにする仕組みです。我が国では現在、国内で飼養され、平成16年12月1日以降に食肉処理された牛の精肉などには、牛の個体識別番号が表示され、インターネットにより、その牛の品種や、いつ・どこで生まれ、育てられ、と畜されたかなどの情報をみることができます。それ以外の食品については、トレーサビリティシステムの導入は義務づけられておらず、各事業者の判断に委ねられています。生産・流通過程で細かく分かれているものなどもあり、導入には一定のコストがかかりますが、例えば、米国では食品関連事業者に対して一部の例外を除いて自らの扱う食品全てに関して供給元および供給先に関する記録の整備・保存を義務付けています（例えば、食品製造業者等が整備すべき記録は、(1)直近の相手の社名、連絡先、(2)食品のタイプ、(3)取引日、(4)ロット番号など食品を特定する情報（製造、加工、包装業者の場合）、(5)食品の品質および梱包の状況）。こうした記録の整備・保存は、「食品の安全性」に対する不安の解消になると思いますか。（○は1つだけ）

食品トレーサビリティシステムによる記録の整備・保存は「食品の安全性」に対する不安の解消になると思うか尋ねたところ、「不安の解消になると思う」（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）とした人が83.6%であった。一方、「不安の解消にならないと思う」（「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計）とした人は3.4%と少数であった。（第25図）

第25図 食品トレーサビリティシステムによる記録の整備・保存は「食品の安全性」に対する不安の解消となるか（全体）

問25 食品トレーサビリティシステムによる記録の整備・保存は、「食の安全性」に対する不安の解消になると思いますか。（○は1つ）



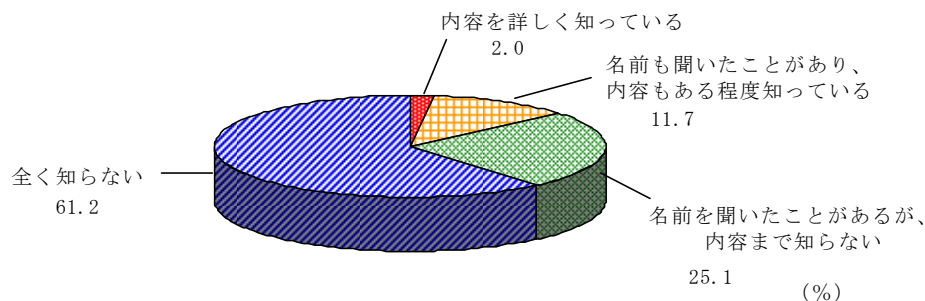
（備考）回答者数は1,807人である。

問 26 食品への人為的、意図的な毒物等の混入を阻止することを「食品防御（またはフードディフェンス）」と呼んでいます。ミスによる農薬残留などに比較し、致死量を超える高濃度の物質が含まれる可能性が高いが、そうした悪意をもった攻撃による社会的・心理的な不安を防ぐ、もしくは最小限に食い止めることを目的としています。あなたは、食品防御（またはフードディフェンス）という言葉を知っていますか。（○は1つだけ）

食品防御（またはフードディフェンス）という言葉を知っているかどうか尋ねたところ、「よく知っている」（「内容を詳しく知っている」と「名前を聞いたことがあり、内容もある程度知っている」の合計）は、全体で見ると 13.7%であり、「全く知らない」とした人が 61.2%と多数を占めた。（第 26-1 図）

第 26-1 図 食品防御（フードディフェンス）の認知度（全体）

問 26 あなたは、食品防御（またはフードディフェンス）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

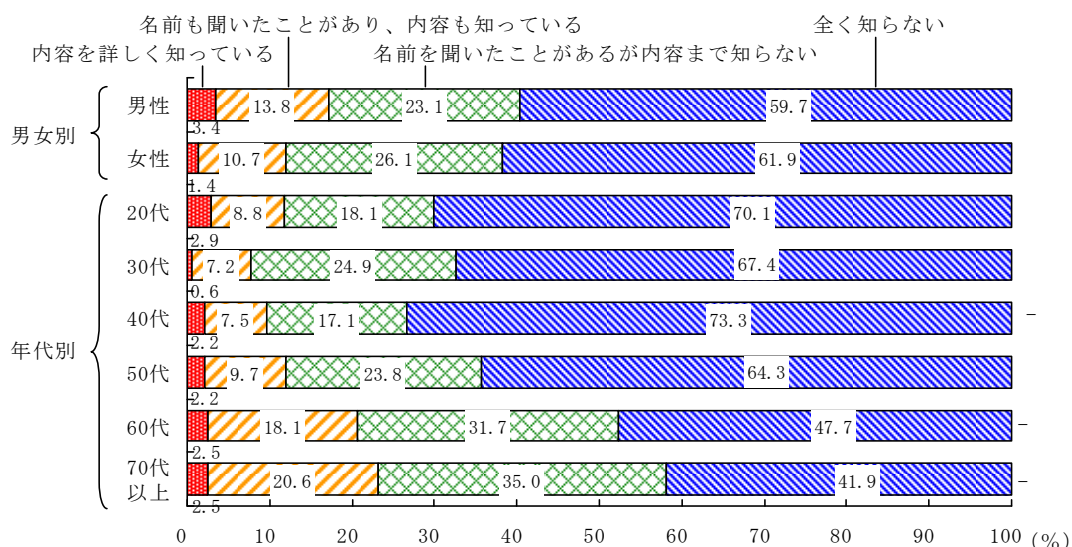


（備考）回答者数は1,807人である。

男女別に見ると、「よく知っている」人の割合は、女性（12.1%）よりも男性（17.2%）の方がやや高い。また、年代別に見ると、60代以上で「よく知っている」人の割合が他の年代より高く20%を超えており、「全く知らない」人の割合が他の年代よりも低く、半数以下である。一方、20代から40代ではおよそ7割の人が「全く知らない」と回答している。（図 26-2）

第 26-2 図 食品を選択する際の表示確認の頻度（男女別・年代別）

問 26 あなたは、食品防御（またはフードディフェンス）という言葉を知っていますか。（○は1つ）



（備考）回答者数は1,807人である。

問 27 今後の食品表示制度のあり方について、ご意見・ご要望等ございましたら、ご記入下さい。(自由記述)

今後の食品表示制度のあり方についての意見・要望を自由記述で求めたところ、有効回答者数 1,807 名のうち、1,156 名 (64.0%) から回答を得た。

回答の中で最も多かった内容としては、「わかりやすい表示にして欲しい」というものであった。現在の表示は「商品やメーカーによってまちまちで、表示されている名称も統一されていないためわかりにくい」との意見が多かった。これを受けた要望として「子どもから大人、高齢者まで誰でもわかるような食品表示にして欲しい」、「表示に用いる言葉(名称)やその定義を統一して欲しい」などが多かった。

個別の表示事項としては、「(簡易名称、類別名も認められるのではなく)食品添加物の名称を統一し正確に表示して欲しい」や「遺伝子組換え食品表示は遺伝子組換え原料が少しでも入っているなら表示すべき」などの要望があった。

食品表示偽装事件を受けて、「消費者は表示を信じて買うしかない」とした上で、「虚偽の情報を記載するのは絶対にやめて欲しい」、「わかりやすい表示とともに、正確な表示を望む」などの意見も多く、さらに、「食品表示違反に罰則を設け、違反した事業者には厳罰を加えて欲しい」という違反者への罰則強化の要望もあった。また、第三者機関による検査体制の整備について求める要望もあった。

消費者の立場でできることとして、「消費者も食品表示を理解できるように知識をつけていかなければいけないと思う」という意見もあり、行政などに啓発活動を求める声(「消費者が勉強する機会をたくさん与えて欲しい」など)や、「学校の授業などで食品表示についてもっと取り上げて教えて欲しい」という要望も見られた。